

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
1	音楽施設は不要。予算を若年・子育て世帯住み替え助成金に回してほしい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。	令和8年 1月16日
2	市民生活が困窮化している中で、多額の市税を使って音楽ホールを整備する必要があるのか。市内の他施設の稼働率も高くない状況で元が取れるのか。財政健全化を公約に掲げているのであれば、市民がより必要としている支援をよく聞いてほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	
3	生活がひっ迫しているなかで、さらに税負担を負わせて整備を進めることは到底納得できない。	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
4	多額の費用をかけてホールを作るより物価高対策を優先すべき。		
5	巨額の税金の無駄遣いであり計画に断固反対。本当に必要なところに必要な支援を。		
6	音楽ホールより子どもの室内遊び場をもっと整備してほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	令和8年 1月16日
7	どれくらいの経済波及効果を見込んでいるのか。たった2000人規模の音楽ホールは年に何回使うのか。	本施設では、毎年の施設運営・事業展開によって年間約54万人、約47億円の経済波及効果が見込まれると推計したところで。さらに、魅力的なコンテンツの創出や青葉山エリアの様々な資源と連携したエリア全体の魅力向上、建築の魅力の発信などの取組みにより、これにとどまらない地域活性化や交流人口・関係人口拡大の効果をもたらすことを目指してまいります。	令和8年 1月16日
8	複合施設を整備するのであれば、5大ドームに並ぶ東北のドーム建設を希望する。	また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。	
9	建設費が高騰するなかで整備を進めることに納得できない。建設費に対する収益も少ない。経済波及効果は県民によるものが中心で、県外や外国人によるものは少ない。また検証にあたっては専門家の意見と市民の意見を取り入れてほしい。中途半端なホールを整備するなら、コンサートなどで多目的で多くの人を収容する大きなドームを建設してほしい。	ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。	
10	多額の費用を音楽ホール建設に充てるより、中心市街地の活性化や子ども・若者向け施策、物価高対策に予算を使うべき。また、音楽ホールはすでに複数施設がある中で採算が取れるのか。既存施設の老朽化が問題なのであれば改修すればよい。ドームを作り、大物アーティストがライブをすれば経済効果も大きいので、ドームを作ってほしい。	引き続き、市民の皆様や専門家の意見を伺うとともに、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。	
11	建設を止めて欲しい。音楽堂も震災遺構伝承もなぜ必要なのか。箱物を創って建設需要を増やすために莫大な市民税を使わないで欲しい。その後の維持コストも馬鹿にならない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	令和8年 1月16日
12	中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。	震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。	令和8年 1月16日
13	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
14	市民ワークショップは平日の昼間開催と聞いており、高齢者や障害のある市民など、多様な市民意見を集める場、対話する場を設けて欲しい。	令和7年6月から8月の土日祝日の日中に市民ワークショップを開催し、小学生から高齢者までご参加いただいたところで。中間案を公表した令和7年11月以降、市民活動団体や障害者団体の方との意見交換の場を設け、本施設に関するご意見を伺っているところであり、今後も機会を捉えて、多くの方の意見を伺ってまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
13	・設計者選定時の案からの変更点として大ホールが独立した配置となり、複合施設としての目的や藤本氏が企図した開かれた広場というコンセプトから離れているように思われる。大ホールホワイエはロビーと連続した形とし、有料コンサート開催時のオペレーションには可動壁やロープ等で対応可能ではないか。現状案の大ホールのホワイエは狭苦しく、トイレの行列で埋まりかねない。東京文化会館のように広いロビーで歓談と交流が広がるよう、工夫してほしい。 ・1階の大ホールのトイレは男女ともホール北側(ステージ上手)に配置されているが、ホールの上手側にも設置してほしい。もしくは今の男性トイレを必要に応じて女性用に開放できるよう通路や可動壁を設けてほしい。その代わり男性用はロビーにあるトイレを拡充しロビーに人を誘導してはどうか。行列なしのトイレを目標にしてほしい。 ・食事のできる「レストラン」ではなくて居心地の良いサードプレイスとしてのカフェが必要である。多賀城市立図書館に併設されているスターバックスを見ても集客力は絶大だ。設計段階から同社と協働し新しいスタイルの店舗の展開も含めて検討すべき。 ・クロークに要する人手を考えるのであれば、衣服を入れられるタイプの無料コインロッカーの方が利用が多いのではないか。	大ホールホワイエとロビーにつきましては、公演を主催される方々より、公演時のセキュリティ等の観点から固定の柵または壁で明確に区切ることを望む声をいただいているところございます。 トイレの混雑軽減の視点は重要であると認識しており、このことを含めホワイエ内がより快適な場所となるよう、空間のあり方や機能配置について引き続き検討を行ってまいります。 また、カフェ、クロークのあり方につきましても、今後の検討の参考とさせていただきます。	令和8年 1月16日
14	学生時代、施設職員が特別にベルリンフィルのリハーサルの見学と、当日券を安価に販売してくれたて感銘を受けた。このホールも日常的に人の居場所となるような良質な現代建築になると良い。	いただいたご意見を参考に、多くの方が気軽に訪れる施設、未来を担う若い世代を育む施設を目指し、運営や事業のあり方の検討を進めてまいります。	令和8年 1月16日
15	仙台駅前の旧さくらの百貨店の跡地活用、こどものための施設を整備するよりも先に音楽ホールを整備する理由がわからない。ホールを整備するのであれば、楽天球場をドームにするほうが良い。	仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 なお、こどものための施設といたしましては、西公園への屋内遊び場の整備に向け基本計画の策定を進めているほか、本施設においても乳幼児を含むこどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。	令和8年 1月16日
16	複合施設整備よりも、自然環境保護、熊対策、メガソーラー中止のために予算を優先して使うべき	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。	令和8年 1月16日
17	建設に反対。一部の市民の希望を叶えるために巨額の予算を使い、箱物を作るのはやめてほしい。市民にいったいいくらの借金を背負わせるつもりなのか。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり、ひとづくりに必要な施設であると考えております。	
18	建設費が高騰している現在において子どもたちに負債を残す整備はやめてほしい。それよりも物価高対策や減税対策など、困窮者対策の方が優先度が高い。	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
19	これ以上の新たな施設整備は不要である。整備費用があるのであれば、光のページェントの点灯時間を早めたり、青葉通りにページェントを復活した方が市民は喜び、集客も伸び、仙台は活性化するのではないか。		
20	市民説明会において質疑応答の時間が不十分だった。質疑応答中心の市民説明会を再度開催すべき	市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答してまいります。 また、今後につきましても、市民の皆様からのご意見を直接伺う多様な機会を設けてまいります。	令和8年 1月16日
21	・市民ワークショップの取り組みは評価するが、本来は施設計画ではなく事業運営計画のために活かされるべき活動だ。将来の事業運営に携わる組織が責任をもって関わり、きちんとディレクションしていかないと、ただの一過性の雰囲気作りで終わってしまう。事業についての検討成果を施設計画に反映し、施設計画での知見を将来の運営に反映できるよう、組織づくりを急いでほしい。 ・災害文化の創造と発信のためには、もっと層の厚い事業を体系的に展開しそれを言語化していくと同時に、伝承とアーカイブという「根の部分」をしっかりとさせてこそ実を結ぶ。そのためには、災害文化をきちんと言語化でき、かつ地道な蓄積と将来を見据えた発信力を支える専門家の専従が不可欠である。 また、「根の部分」のための作業環境、例えば被災物を扱う調査保管や搬出入ルートがきちんと想定できているか心配だ。 ・災害文化の発信が押し付けと捉えられないよう空間的な配慮を検討することも必要だ。 ・2000人のキャバを減らしてもパイプオルガンは必要。パイプオルガンの荘厳さは、震災メモリアルにふさわしいシンボルとして大きく貢献するのではないか。	市民ワークショップでいただいたご意見は、施設設計だけでなく、開館後の事業展開にも生かしてまいりたいと考えております。指定管理者となる団体の選定は今後進めてまいります。選定後は指定管理者と共に管理運営に関して検討を進めてまいります。 災害文化の創造と発信にあたっては、中心部拠点にかかるこれまでの検討や今回いただいたご指摘も踏まえ、専門家ははじめ多様な方々のご意見を伺いながら、事業や運営のあり方等を検討してまいります。 本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の方多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
22	・中途半端な場所に、中途半端な規模・使用目的の施設は不要。 ・震災を語り継ぐためには、被災した場所で行い、現地に足を運んでもらって感じてもらうことが大切だ。メモリアル拠点を作っても心は動かされない。 ・コンサートができる収容人数ではないため、整備費に対して見込める収益は見合わない。市内各所にホールがすでにあるため、既存施設を快適化させることがコストパフォーマンスの観点からも推奨される。	伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリアとして国内外から多くの人を惹きつける求心力となり、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。 また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。令和2年に行ったホールの需要想定調査において、十分な需要が見込めることを確認しております。	令和8年 1月16日
23	・宮城県県民会館が2000人規模の劇場型ホールになる計画であることを前提にすると、「舞台は可動式でなく、サウンド型固定とすべき」で「客席は1500人以下とすべき」 ・宮城県県民会館が、舞台芸術にも適した劇場型のホールになるのであれば、仙台市の新ホールはクラシックに特化したサウンド型単機能のホールとして、建設費の低減を図るべき ・藤本氏は説明会中に「講演」という用途にも言及していたが、音響の豊かな音楽ホールで、残響が多いと聞き取りにくくなる講演を実施するのか。どうしても2000人を入れたい講演ならサンパザもあり、新ホールが対応する必要はない。 ・吹奏楽や合唱コンクールにも言及していたが、それらも含め、2000人規模のコンサートは、新宮城県県民会館で開けばよいのであり、2つは絶対に必要ない。仙台で最高レベルのクラシック音楽が演奏されるコンサートの集客は、1000人以上1500人未満がボリュームゾーンだ。 ・今後、市民会館、県民会館、電力ホールがなくなってしまうと、仙台市内には、使い勝手の良い1000～1500人規模のホールがイズミティ大と川内萩ホールのみとなってしまいます。いずれも、音響のよいホールとは言いにくいことから1500人規模の音楽ホールが望ましい。	東日本大震災後、生の音の音響性能に優れた2,000席規模のホールの整備について、1万人近くの市民の皆様からの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。 また、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」「2,000席規模で十分な舞台機能をもつホールがないことから、仙台で開催できない大会や公演がある」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様にも様々な文化芸術の創造や体験の機会を提供するため、コンサートホール形式とプロセシウム劇場機能に転換可能なホールとしたものでございます。 世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、新県民会館との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。 なお、「講演」での利用につきましては、青葉山エリアでは本施設の整備予定地を含めエリア一帯を活用した大規模学会が開催されてきた実績があることから、同等規模の学会の開催時には本施設も会場の一部として活用されることも想定しております。講演のみならず多様な舞台芸術に対応する転換型ホールとして、残響時間は可変とする想定であり、音響設計会社の専門的知見のもと各般の利用目的に対し適切な音響環境を実現してまいります。	令和8年 1月16日
24	・複合施設整備に向けた財源調達内訳を明示するほか、整備費の具体的な支払いのタイミングと支出額、市全体の歳出に占める割合を示してほしい。 ・経済波及効果を年間47億円とした試算の具体的内訳と裏付けを公開してほしい。 ・藤本壮介氏の設計が持つ独自性や未来への価値を、市が発注者として自信を持って擁護し、声なき応援者の期待を裏切らないよう、引き続き強いリーダーシップを発揮してほしい。 ・「多くの市民が利用する想定」とのことだが、その具体的な根拠となる年間利用者数の目標や、市民全体(約109万人)のうち何割の市民が何らかの形で施設を利用できる見込みか示してほしい。 ・施設のポテンシャルを最大限に引き出すための運用体制や指定管理者の業務仕様を検討し、指定管理者の評価基準を明確にしてほしい。 ・市民が多様な方法で施設を使おうとする斬新なアイデアを、形式的なルールで妨げることのないよう、設計者と発注者が一体となって柔軟性と創造性のある施設運用のあり方を検討してほしい。 ・せっかく実現するのであれば、消極的で無難な施設ではなく、「仙台市やるな！すごいな！」と内外から羨望の目で見られるような、未来を象徴する施設になることを心から願っている。市民が自信をもって計画を応援できるよう、透明性のある情報開示をお願いしたい。完成を楽しみにしている。	施設整備費については、関連経費を含めた額や財源について精査を進め、整備の各段階においてお示してまいります。また、市全体の財政状況につきましては、年一回、中期財政見通しをお示しするなどの取組を行っているところでございます。 経済波及効果については、「施設の運営や事業展開により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で21億円強、「来場者の消費により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で約25億円強の合計で約47億円と推計しました。 前者については、他都市の類似施設を参考に運営・事業費を約18億円/年と想定し、宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。後者については、大ホール・小ホール・震災メモリアル拠点といった諸室ごとに想定来場者数を試算し、利用目的別の1人当たり消費額を積和したうえで、前者と同じく宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。これにとどまらない効果を目指すとともに、教育や福祉、防災など、仙台のまちづくりの様々な面において大きな社会的効果を発揮するものと考えており、開館後も含め、こうした経済的効果・社会的効果の可視化に努めてまいります。 来場者数見込は合計で約54万人であり、オーケストラ鑑賞会や災害文化の展示の見学などで市内全域の児童生徒が来場することを見込むほか、障害のある方、高齢の方など、あらゆる人に文化体験の機会を提供するプログラムを展開するなど、多くの市民の方々が来場する施設運営を目指してまいります。 本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。その運営に際しては、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりや政策と連動した事業展開が求められるものと考えております。こうした視点を踏まえ、適切な指定管理者を選定するとともに、業務の仕様、評価指標の検討を進めてまいります。社の都の新たなシンボルとして国内外から多くの人を惹きつけ、仙台のまちをより豊かにする拠点とすべく、整備の必要性やこの施設がもたらす価値についてより一層の情報発信に努めながら、着実に整備を進めてまいりたいと存じます。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
25	・ホールの多目的化はどうしても帯に短し褌に長しになってしまい、音響的に良い影響を与えないと思う。出来たら純粋な音楽ホールとして世界に自慢できるホールを作してほしい。 ・音楽ホールにパイプオルガンは必須。近現代の大規模な管弦楽曲では、パイプオルガンが使われる曲が多数ある。何十年か越しのホールが出来るのであれば、完全なホールを創ってほしい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところがございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。 既存の施設の中にも、音響性能が高く評価される転換型ホールが全国に多数ございます。本施設では、世界的な実績を持つ音響設計会社(音響コンサルティング業務を委託し、音響反射板の重量をはじめとして、音響性能確保のために考慮すべき点を取りまとめた「音響ガイドライン」を定めております。設計プロセスにも上記音響設計会社や劇場に関する多数の専門家が参画しており、その知見を十分に生かしながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
26	音楽ホールは不要。何で音楽ホールが必要なのか伝わってこない。インスタグラムにやる気が感じられない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
27	・施設整備に係る費用の財源を確保できないのであれば整備計画を凍結すべき。 ・宮城県県のローコストアリーナ建設構想にのっかり、収容1万人規模の複合施設内に音楽型重視ホールを併設するように計画を見直したほうが良いのではないのか。 ・マルシェやワークショップは並行して大改造する西公園内でやれば良いのではないのか。マルシェやワークショップは不要ではないのか。災害文化の展示も、震災遺構の荒浜小やせんたい3.11メモリアル交流館があり、過剰整備だと思う。音楽ホールに必要なパーツに特化した再デザインが必要。 ・ボーリング調査結果に係る調査報告書を公開しないのはなぜか。整備予定地の川内地区は水はけの悪い場所だが、そんな土地に免震構造の建物を作って地盤沈下等のリスクはないか。 ・市民説明会の質疑応答で発言した人には回答して、オンラインでの質問者には回答しないのは市民サービスの差別に繋がるのではないのか。	「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)」におきましては、「劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」という考え方が示されております。 多様な目的を持った人々の出会いと交流を促進する吹き抜け空間や、マルシェやワークショップなどの取り組みは、上記の考え方を基とする本施設において、重要な役割を担うものと考えております。 また、震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんたい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設として、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。 なお、宮城県が検討を進めている「ローコストアリーナ」につきましては、アーティストの公演や大規模イベント等を担う施設として、本施設とは異なる役割を果たすものと認識しております。本施設と県の施設がそれぞれの特性を生かしながら、相互に補完し合い、仙台圏全体のにぎわい創出や交流人口の拡大につなげることが重要だと考えており、合築による計画見直しは想定しておりませんが、宮城県とは今後とも連携を図ってまいります。 令和5年度に実施したボーリング調査報告書につきましては、技術的な情報が多いため基本計画には添付しなかったところでございます。 地盤の硬軟や締り具合の程度は、土質ボーリング柱状図(標準貫入試験)のN値で判定されます。N値が低い場合は、地盤が軟らかく不安定であることを示し、補強工事や地盤改良が必要になる可能性があります。逆にN値が高い場合は地盤が安定しており、建物の重量をしっかりと支えられることを示します。 本事業地の西側では地下3m程度でN値が50を超えており、大型建物の建造に耐えられる非常に堅固な地盤と判断されました。 ご指摘のとおり、当該地区は地下水位が高い地区ですが、地下水は堅固な地盤より高い位置で観測されておりますので将来の地盤沈下等のリスクは生じないものと判断しております。 市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきまして、このように市の考え方を回答させていただくことといたしました。	令和8年 1月16日
28	一番気になっているのは運営体制である。 災害文化は、さまざまな地域における災害によって対策や考慮しなければならない点が必要にアップデートされていくという実感がある。「常に対話し続けることができる施設」ということが重要であり、「ルールやマニュアルが本当にこれで良いのか?」ということを常に考え直し、アップデートしていくという姿勢が必要だと思う。その良い例として、秋田市文化創造館の取り組みに注目している。 市民と共に公共施設はどうあるべきかを考える姿勢を持ち、次に必ず来る災害に対するスキルを市民とともに作り上げていけると良い。凝り固まった施設ではなく、柔軟にどのようなカタチにも変化していける施設になることを望む。	災害文化の創造を行うためには、災害情報の更新はもとより、多様な方々との対話による気づきや学びを通じ、取り組み自体も不断に更新していくことが重要であると考えています。 地域の多様な人材と協働した事業展開を図るとともに、柔軟な施設運営のもと市民の皆様から生まれる多様なプロジェクトを後押ししていけるよう、他都市の先進事例を参考にするとともに、運営のあり方の検討の段階から市民の皆様に参画いただくような取り組みを、今後とも行ってまいります。	令和8年 1月16日
29	吹奏楽関係者にとって待望の音楽ホールだ。コンクールを開催する際の楽器搬出入の配慮がなされていること、コンクール特有の演奏者と楽器の動線がしっかり確保されていることは素晴らしい。仙台に世界に誇れる音楽ホールが完成し利用できるようなことを願っている。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	
30	ホール建設に賛成。		
31	2000席規模で良い音響設備を備えるホールがないことが仙台市の文化活動の発展、音楽文化の醸成にブレーキをかけている。国内外の一流演奏家の演奏機会の増加や各種コンクール・コンテスト開催のため、宮城県内外から広く集客するためにも、十分なキャパシティのホールが必要で、ぜひ整備を実現してほしい。		令和8年 1月16日
32	東北各地に素晴らしいホールがある中で、政令指定都市の仙台にだけないのをとても寂しく感じている。胸を張って楽都仙台と言えるためにも計画を推進し、早期に立派なホールができることを願っている。		

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
33	市民説明会ではクラシック音楽を愛好している方からパイプオルガンの要望や1500席が良いとの意見があったが、こだわりの極致かと思う。 自身としては、エスカレーターの設置と、女性用のトイレを男性の10倍くらい多く設置することを望む。意外と千客万来かも。弱者救済宜しく願いたい。	施設各所にエスカレーター・エレベーターを設けるとともに、ホール来場者用のトイレは、女性用が特に混雑することを前提に十分な数を備えるなど、あらゆる人が気軽に訪れ、快適に利用できる施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
34	自分自身が吹奏楽をしていることから、演奏できる場所が増えるのはとても嬉しく思うし、ぜひ完成させてほしい。また、震災が起こった際の避難場所として活躍してほしい。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。 なお、本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、免震構造の採用によって高い安全性が期待できる施設であり、帰宅困難者の一時的な受け入れなどの役割を果たせるものと考えております。また、平常時においては、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、災害に備え、災害から立ち上がる力を広める施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
35	日常を忘れて心穏やかに過ごせるような、大きくてキレイな施設になってほしい。また、演奏で人が集まり、耳を傾け、交流できる場をつくってほしい。	市民の皆様が日常的に集い、交流することのできる施設を目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
36	・県内のホールは声楽や演劇向けに作ったようなホールばかりであるため、吹奏楽や管弦楽、オーケストラにとって音響の良いホールが必要。市民のみならず、県内や東北の各地からも愛されて利用されるホールにしてほしい。 ・駐車場の確保、楽器荷下ろしなどがスムーズに行えるスペース、日立システムズホールのパフォーマンス広場のような場所も設けてほしい。また使いやすい利用料金の設定にしてほしい。	本施設の整備にあたっては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指してまいります。 日立システムズホール仙台のパフォーマンス広場とは異なる空間とはなりますが、誰もが気軽に訪れ様々な催事やプロジェクトなどが展開される「交流イベントロビー」を設ける計画でございます。駐車場につきましては、敷地の広さや地下鉄駅隣接であることも踏まえ一般用駐車場の駐車台数は90台となっておりますが、楽器荷下ろしの利便性などには十分に考慮してまいります。使用料の設定につきましては経営的視点とともに、多くの市民の皆様にご利用いただき、本市の文化芸術環境を向上させるという視点も持ち、検討を行ってまいります。	令和8年 1月16日
37	整備費が高すぎる。建設に反対。市民からの意見に個別回答をしないのであれば、どんな意見があったのかまとめたうえで、公に回答すべき。市民に対して不誠実だ。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
38	複合施設は不要。複合施設が必要なのか、市は市民に対する説明を怠っている。 市民から質問を募って、回答をホームページに公表することもできるはず。市の他の施策では行われていることが複合施設ではなぜしないのか。市民の意見に真摯に対応してほしい。	市民の皆様からのご意見につきましては、基本構想・基本計画それぞれの策定過程においてパブリックコメントを実施してまいりました。今後につきましても、ご意見を伺う多様な機会を設けてまいりたいと考えております。市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答するとともに、整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	
39	40年来の悲願であった新ホールが建設されることになり、嬉しく思う。世の中では2000人規模の新ホールが完成し、著名な演奏家のコンサートが仙台を素通りしてしてしまうような状況を悔しく思う。ここまで進んできて凍結してしまった場合、今後復活することは不可能であろう。 このホールは子供たちにとっても欠かせないものになる。吹奏楽も合唱も全国大会誘致が子どもたちの大きな刺激になり、技術が向上するし心も育つ。長期的視点に立って考えた場合、仙台という街づくりにも豊かな人間育成にも大きく寄与できる場所になると確信している。中断させずに前に進めてほしい。	「楽都仙台」としての本市の文化芸術をさらに発展させるとともに、未来を担う子どもたちや若い世代の育成に貢献し、本市の魅力を一層高めるまちづくり・ひとづくりの拠点を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
40	ホールが出来ることは喜ばしいが、費用がかかりすぎである。音響には力を入れてほしいが、外観は四角なビル型でも構わない。奇抜なデザインはいらない。建設後も維持費や修繕費が余計にかからないような建物にしてほしい。	本施設は、文化芸術と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々と活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら、設計を進めてまいります。	令和8年 1月16日
41	派手な屋根のデザインは不要であり、音楽ホールに特化した屋根にするといくらぐらい削減になるのか。また、建設費用は仙台市の税金なのか、市民の使用は無料で市外は有料なのか。税金も徴収し、市民からも入場料等を徴収するのであれば二重徴収になると思う。	屋根については、周辺への圧迫感を低減し青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しを遮蔽、屋内と屋外が連続する開放的な環境の確保といった点も考慮しております。 特定の部分に絞って費用を比較することは難しいですが、今後実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法(EOI方式)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。 また、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
42	今回の施設建設に反対している立場ではなく、建設するのであればより良い施設の完成を願う立場として、何点か意見したい。 1. 建築外観デザインについて コンペ当時の統一感ある外観デザインが失われ、現在の案は無理にコンペ当時の半分のデザインを残したイメージに感じる。例えば屋外階段が古い公民館の屋外階段のように感じられる。市民の評価、世界的建築家の建築作品としての良い評価を得ることができるのか疑問である。 一案として、バースで表現されている音楽ホール棟の外観により強いデザイン性を持たせる一方、屋外の「ひらひら」の部分も含め、交流イベントホール棟のデザインをシンプルなものに変更してはどうか。再設計の時間やお金はかかるが、最終的な建築コストを抑える方向に考えていけば有効なのではないか。「ひらひら」部分は構造や施工の難しさに比べ、完成後は使いづらいという意見が多くなるものと想像する。全体的にシンプルで統一性あるデザインに見直すことが良い。 2. 1Fスペースの計画について 交流イベントロビーは、音楽ホール利用者の待機場所になる可能性があるため、両者の動線と空間の融合性を改めて検討すべきである。 また、レストランは眺望を活かす観点から2F配置が望ましく、トイレや工作工房も交流イベントロビーの最大限の活用を考えるとこの場所でないと感じる。 3. 大ホールについて 可動式ではなく固定舞台による音響最重視の設計が望ましい。後方約200席を囲むサラウンド型配置がどのような効果を生むのかが有効性を感じないし、若いアーティストのライブでは音響機材や演出装置が優先になり後方席が使われない可能性がある。固定式とすることで余分なバックヤードを減らし、建設コスト削減にもつながる。 4. 地下1Fについて スロープからの雨水流入対策、機材搬入トラックの切り返し、ガルウイング車に対する天井の高さなどは大丈夫か？ 可動式舞台を廃止すれば客席収納スペースも不要となる。震災関連施設であるのに災害時の備蓄庫のような場所が見つからないので、可動式をやめて余ったスペースを備蓄庫に当てれば良いのではないか。 5. 1Fについて 可動式客席をなくすことで1Fのバス乗降スペースに余裕ができ備蓄庫も設けられる。レストランや工作室は2F以上へ移し、1F交流スペースとホール関連機能の再構築が必要である。もぎりやホール側のトイレ計画がこれで良いのか気になる。 6. 1F～4Fについて 市民利用スペースに比べ、運営側スペースが過大に感じる。吹き抜けと使用できるスペースのバランスも気になる。上下階のつながりは大切だと思うが、上下の気配を感じる空間が果たして良いのか。また、コンペ案からレイアウトが変化している現状を踏まえ、デザイン全体を再構築し、コストの削減、シンプルで素晴らしい建築デザインを望む。 7. 市民ワークショップについて 市民ワークショップの意義は認めるが、今年度のワークショップは「何をやりたい?」の繰り返しで終了した印象。これを施設完成まで実施し続けるのが良いのか疑問である。 8. サテライトオフィスについて 素晴らしい考えたと思うが、実際に設計業務をするオフィスでもあり、市民交流スペースとしての活用には工夫が必要。月に1回自由に集まれる日を設けるなど、イベント化するのが良いのではないか。オフィス内をパーティーションで仕切ることも必要。	1.建築外観デザインについて 公募プロポーザル以降の設計プロセスにおいて、外観のデザイン性のみではなく、設計コンセプトに基づく内部空間の機能性や連続性、諸室に必要な機能、利用想定に基づく相互の配置、コスト、構造や設備といった要素について総合的に検討を進めてきた結果、現在お示している設計中間案となったものでございます。 屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節し、段階的に設けることで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。全体的に統一性があるデザインという視点は重要であると考えており、という様々な視点を想定しながら、総合的に検討を進めてまいります。 2.1Fスペースの計画について 1階交流イベントロビーは、ホール来場者に限らず、誰もが気軽に立ち寄り、居場所を見つけられる「開かれた広場空間」となることを目指しています。一方で大ホールで大規模公演が実施される場合等は、両者の動線が交錯し混乱を招かないよう、動線計画や運用面での工夫を行ってまいります。 また、レストランや諸室の配置については、利便性等を考慮して現在の設計案となったものであり、眺望を生かしたりロビー空間の魅力を高める方策については今後とも検討してまいります。 3.大ホールについて 本施設の大ホールは、「コンサートホール形式」と「プロセニウム劇場形式」に転換する多機能ホールとなります。 クラシック音楽等の公演においては、生の音が適切に反射するホール形状となっていることが重要となります。「コンサートホール形式」においては、可動式の音響反射板によってそのような空間を実現します。 また、音楽鑑賞においては、視覚的な要素や演奏者・聴衆の一体感といったことも素晴らしい音楽体験を形づくる重要な要素となります。舞台を介して観客同士が向き合い、演奏者を含むホール全体での一体感を感じたり、多様な眺めと響きを楽しんだりすることができる空間が「楽都仙台」を象徴する本施設に相応しいという考えから、「コンサートホール形式」においてサラウンド型を導入したものでございます。 一方で、ご指摘いただいたような音響機材をふんだんに用いるポップスや演劇などの公演では、側舞台空間や吊物パタンなどの舞台機構が必要となり、専用のコンサートホールで開催することは困難です。こうした多様な演目に対応するのが「プロセニウム劇場形式」であり、多くの市民の皆様が鑑賞に訪れることができる・舞台に立つことができる施設とするため、この2つの形式に転換可能なホールとしたところでございます。 4.地下1Fについて 地下階への雨水流入については、適切な雨水排水を計画してまいります。また、搬入車両やガルウイング車への対応につきましても、車両の動線や積卸を想定して寸法を確保しながら設計を行っております。 本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、帰宅困難者の一時的な受け入れなどのために必要となる物資の備蓄庫を1階に設けております。 5.1Fについて ホールの転換機構や諸室配置についての考え方は前述のとおりです。ホール内のトイレの基数については、他都市の近年の施設の事例を参照し十分な数を計画しております。もぎりやトイレの並び列なども含めた動線計画については、より安全で円滑なものとなるよう引き続き検討してまいります。 6.1F～4Fについて 吹き抜け空間を含む施設全体のデザインの考え方につきましては前述のとおりです。運営エリアについては、安全で円滑な施設運営や魅力的な事業実施、市民の皆様様の活動支援などのための職員の配置を想定していることに加え、レジデントオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の事務所や備品・備蓄倉庫なども含んでおり、必要な機能を整理したうえで現在の設計案となっております。 7.市民ワークショップについて 令和7年度の市民ワークショップは、多くの市民の皆様に本施設への関心を持っていただくとともに、多様なご意見・アイデアを施設づくりに生かすため、基本設計の一環として実施しました。今後とも、このワークショップの成果を生かしつつ、市民の皆様とともにこの施設のあり方をさらに幅広い視点から考えていけるような対話の場づくりを検討してまいります。 8.サテライトオフィスについて サテライトオフィスについては、いただいた意見を設計事務所と共有し、あり方を検討してまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
43	災害時には衣食住だけではなく心を癒し希望を与える文化の力は必要で、仙台は身をもって体験した。この経験を世界中の多くの人に知ってもらい災害に備え考えて行くための施設となってほしい。特に子どもたちが災害を学んだり、プロと同じホールのステージで発表できる経験を多く作ってほしい。	本施設は、東日本大震災の伝承のみならず、震災からの復興過程で認識された文化芸術の力も生かしながら、これからの災害に備える知恵や術、災害が起きたときに立ち上がる災害文化の力を育み、国内外に広げていくことを目指しております。また、将来を担うこともや若い人に多様な文化芸術体験や災害の学びの機会を提供することを重視してまいります。市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方に最高水準の舞台に立つ機会を提供することで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
44	「本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。」と市は回答しているが、たった1万人のために1,000億の無駄な金を使うのはやめてほしい。少なくとも1万人以上の市民は反対しているし、地元経済界といってもほんの一握りで、多くの事業者は大反対である。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、実際に施設に足を運ぶ人以外にも含めたあらゆる市民の皆様にメリットを感じていただける施設を目指し、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
45	「(音楽ホールの)整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。」とあるが、今回、市の考えをアリバイ程度でホームページにさりげなく掲載しただけで、アクセス件数が多いと思われる市のトップページ等には、一切掲載のお知らせはない。インスタでも発信もない。市が積極的に広報しようという本気度は全く伝わってこない。	情報発信については、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 2月12日
	■スタジオ・練習室に吊りバトンを これまで長年ワークショップやアウトリーチを、市民センターの会議室や体育館、学校の教室など、あらゆる施設で行ってきた。天井にせめて1本のバトンがあればあれこれできたのに、と思うことが多くある。躯体からある程度の荷重に耐える吊りバトンがあると、使い勝手や表現の可能性を格段に高める。 照明スポットライトや音響スピーカーだけでなく、袖幕、カーテン、看板、装飾、例えばミラーボールやくす玉など、様々な効果を試すことができる。 1本のバトンがあれば、それを頼りにバトンを仮設して、欲しい天井位置に吊りたいものを仕掛けることもできる。逆に、バトンが無ければ天井から吊る作業は非常に困難となる。また、建設前ならともかく、後付けすることも現実的に無理だ。 【大練習室】 ・西側(収納庫の反対側)の壁から6～7m離れた天井位置 ・東西の壁と並行(南北のバトン) ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・西壁からの距離は大練習室の天井高5mを基準として+1～2m ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・できれば東側と中央にも並行のバトンを ・色は素のままでも構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊らないこと(中間に支柱が入っても良い) 【ワークショップスタジオ】 四隅の柱につながる梁のような、東西南北に4本わたるのが理想 ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り、または柱から出て、荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・色は素のままでも構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊らないこと(中間に支柱が入っても良い) 【その他のスペース】 多目的交流スペース、市民活動スペースなどにも吊りバトンがあるとよい。また、企画・常設展示室やアーカイブライブラリーには、バナーなど自在に吊れる(メッシュ状?)の天井が良いと思う。 ■スタジオ・練習室は二方向避難 その場で出来た作品やプログラムの、有料での試演会などが出来るよう興行場法や消防法に則り二方向避難を確保していただきたい	■吊りバトンの設備について ワークショップスタジオなど各諸室の吊りバトン等の設備については、いただいたご意見を参考に、実施設計の中で詳細を検討してまいります。 ■各所室からの避難経路について 各諸室からの避難経路については、消防局と協議のうえ適切に設定してまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
46	メモリアル拠点の機能や特色はどこから生まれるべきなのか、どういう担当部署・部門が必要なのか、音楽ホールに対して「災害文化」のイメージの弱さを懸念している。 「基本計画」に示されている「事業実施例」が、中心部震災メモリアル拠点の事業イメージと十分に運動しているだろうか。 仙台市の「強み」として ・東日本大震災から立ち上がってきた経験 ・市民協働、男女共同、防災教育、社会教育、産学連携 ・防災環境都市としての国際的なプレゼンス ・文化芸術・スポーツ(プロ/アマ) が挙げられますが「災害文化」に反映されていないのではないかと ワークショップ・アウトリーチは「文化芸術」であり、メモリアル拠点がやるべきモノとは別モノ、と捉えられているのではないかと。 実は「ワークショップ・アウトリーチ」の要素や本質はメモリアル交流館10年の運営や事業に潜んでおり、当初から意図的に実施されています(「メモリアルコンサート」や実演や朗読などの協力事業も含め)物語として伝える「VOICE」や、荒浜磯獅子踊りなどはその果実だ。 これらがメモリアル側で語られず音楽ホール側に回収されてしまうと、内容が音楽コンテンツに絡み取られ音楽に縛られ、持っていかれ、引っ張られ、なかなか自由に展開できないのではないかと。 街なかの「メモリアル拠点」では、15年間の支援の経験や実績(メモ館事業だけでなく「文化庁派遣事業」などを踏まえて、社会の益となる動きを研究し、応用し、発信するアートセンターやラボの機能に発展、つまりワークショップ・アウトリーチをメモリアル拠点の側に寄せコンテンツの中心にアートセンターやラボといった「機能」が見えなければ音楽ホールにどンドン吸い寄せられて、運営に活かされず、しまいに消えてしまうんじゃないかととても懸念している。 ・音楽ホールはその存在自体に求心力がある。それに対して「ワークショップ・アウトリーチはメモリアル拠点のコンテンツである!」「災害文化芸術」と位置づけた方がスッキリとし、現実的なイメージが動き出すのではないかと。 偶然なのか、地下鉄東西線沿線にメモ館、10-BOX、東北大災害研があり、一筆書きでつながる相乗効果に期待したい。 かつて岡本太郎が丹下健三の大屋根をぶち抜いて建築と芸術が戦っているような、ギャップを感じるメッセージのような、「実物を見なければ損だ」と思われるような求心力 被災地という場に対峙する求心力は、必然的に芸術性を帯びるのではないかと	■災害文化事業について せんだい3.11メモリアル交流館は、東部沿岸地域の玄関口として、被災地域の文化や、震災の経験と教訓の継承、発信に取り組む拠点として地域と連携し様々な事業を展開してきました。 「基本計画」では事業実施例のイメージと記しておりますが、本施設は多様な社会的価値の創出を通じて将来世代を含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指しており、メモリアル交流館における事業実施の成果や事業の立案、展開手法も参考としながら、引き続き検討を進めてまいります。 災害文化事業の実施にあたっては、多様な主体の参加や交流によるワークショップやプログラムを通じて、市民の皆様からのアイデアを実践する機会を多く確保しながら、取り組みを進めます。 いただいたご意見を参考に、引き続き検討を進めてまいります。	
	【クワイエットルーム】 ジェームズ・タレルのブルー・プラネット・スカイ(金沢21世紀美術館)等の作品やマルクス・キーソンのインタラクティブアートのイメージですがクワイエットルームで同時刻の仙台の海が見える身体的な体験 「青葉山に行けば海が見えるらしいよ!」「マジで?」とささやかれ、いつ行っても風景が異なり、子どもから大人まで、無言で見ていたくなるライブ感、しかも「あの海が…」という思いに恒久的に向き合う求心力。ここは妥協すべきではない。	■クワイエットスペースについて クワイエットスペースは、いつも変わらずにある空間として常設し、心を落ち着け、静かに想いを巡らすことができる場として検討しております。いただいたご意見を参考に引き続き、詳細を検討してまいります。	
	地下鉄東西線が開業して10年、目標乗客数を達成し、黒字が見込まれるというニュースは、市民のだれもが喜ぶ反面、ホッと安堵している人も少なくないのではないかと。開業前の反対意見は相当な圧力を感じた。実物を見て実感してみても初めて、次第に反対意見も収束したように感じる。 それほど実物の無い中での議論は、個々人の思いを見比べることができず、ネガティブに偏りがちなんだと、改めて感じている。 ただし、地下鉄というインフラは、実際に利用できて数字で価値を表わせるが、複合施設は数字だけでは表せない価値を持っているはずだ。 数字だけではなく、数字を超えた表現や創作や想像の象徴として、見え、身体的に体感できる実物に求心力を持たせるために、妥協はすべきでない。その求心力は、メモリアル拠点の「災害文化・芸術」を引き寄せワークショップ・アウトリーチ振興の源泉になるのではないかと。 市民に益をもたらし続け、10年後の市民が納得する施設になってほしいと心から願う。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、市民やまちに貢献する施設を目指しております。そうした効果の可視化にも努め、多くの方に価値を実感いただける施設としてまいりたいと考えています。	
47	仙台は有名なコンサートが飛ばされたり、友人からは公演がしたくても、いつもホールの予約が埋まっていると聞いている。東京のホールのようにプロが立つ舞台で子どもたちが演奏できることは、とても良い経験になる。一緒に災害を学べることも仙台だからこそで、青葉山が賑わうことになる。 建築費が高くなっているとのことだが、何もかもが値上がりしている現在、ある程度は仕方がない。 それよりも、ホールが出来ることによって、そこが観光場所の一つとなり、仙台が賑わい、元気になって、文化を深め、子どもたちへの良い効果も期待できるはずだ。完成を楽しみにしている。	本施設は、乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しております。また、市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方が最高水準の舞台に立つことで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。このように、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらす、仙台の新たなランドマークとして国内外から多くの人を惹きつける拠点となることを目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
48	県民会館も新しくなるので、青葉山の施設は必要ない。市民が使わない施設を増やさず、補助金などに充ててほしい。青葉山の自然を破壊することにもなると思うため、建設反対。建設場所がさくら野跡地であれば、利用しやすい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 本施設が立地する青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。本施設の整備を通じて、このエリアに国内外から多くの人を惹きつける求心力をもち、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、施設整備にあたっては、青葉山エリアの景観と調和した施設外観にするとともに、周辺と調和した緑化、自然環境への配慮に努めます。 なお、さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年 2月12日
49	2000人が入るホール、とても楽しみにしている。今は山形に先を越されてしまい、たくさんのおペラや演奏会が山形で開催されている。関東圏・東北の大きな演奏会やコンクールは、仙台で開催してほしい。また、350席の小ホールも使い勝手が良いサイズで、完成が待ち遠しいが、ピアノ発表会など小規模の催事には、350席も大きく感じるため、さらに小さい100人くらいのホールがあると、たくさんの方が利用すると思う。	本施設では、これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラ公演、オペラ・バレエなど総合舞台芸術の本格的な公演、文化芸術の大規模な大会などが開催されることを見込んでおります。 市民の皆様はの発表の場としては、リハーサル室を100～200名程度の発表会でも活用できる空間とし、控室やラウンジも設けるとともに、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオを設けます。	令和8年 2月12日
50	音楽や踊りや演劇の場所は他にもたくさんある。このご時世にまだ増やそうとする意味が分からない。 先日誘われて歌のコンサートに行ったが、無料とは言え、なぜ市税が素人の団体にまで使われるのか遺憾である。物価高の世の中、一部の人はではなく市民全員のためにすることに財源を使って頂きたい。美術館の方がまだ有意義である。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、整備の検討を進めてきたところでございます。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもち、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
51	新しい音楽ホールが出来ることをとても楽しみにしている。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
52	整備予定地は、東北大や国際センターでのイベントが開催される際に渋滞が発生している。渋滞が発生しにくい場所に整備することを検討していただきたい。	伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリア全体に国内外から多くの人を惹きつける求心力をもち、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。 青葉山エリアでは、イベント時などにスポット的な交通渋滞が発生することは認識しております。エリア全体の総合的な交通環境のあり方について、引き続き検討してまいります。	令和8年 2月12日
53	これだけ資材高騰していて当初の予算より大幅にあがる施設は不要である。税金の無駄遣いが酷い。 宮城県でも2000人の施設をつくるのに、張り合って仙台市が作る必要はない。そんな金があるなら、中学生の給食費を無料とか、そっちが先だ。本当にない。必要ない。税金の無駄遣いが許せない。どうしてもやるなら、是非を問う選挙をやってからやってほしい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ており、これまでパブリックコメントをはじめとして様々な形で市民のご意見を伺いながら、整備に向けた検討を進めてまいりました。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもち、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
54	仙台市の音楽ホールを年間10日ほど利用している。本当に必要なのはパトナホール規模のホールである。客席数が多いほど利用料は高くなる。市民の需要に合ったホールを作してほしい。	仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 一方で、約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオなども設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。	令和8年 2月12日
55	是非パイプオルガンを設置していただきたい。更に、パイプオルガン設置場所・空間は、パイプオルガンと仙台フィルハーモニー楽団も共演できる環境での構築をお願いしたい。現在、仙台市を含め宮城県内には、パイプオルガンと交響楽団が共演できる施設がない。本共演は東京まで聴きに行く必要があり、是非仙台でも聴きたい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
56	この建物に必要性を感じられない。費用も当初の予定より約300億円も増えている状況でも進める事業なのか。約200億、約100億、と段階的に費用が上がり、現時点で約650億円、今後もまだまだ増える可能性が容易に予想できる。今後の仙台市のことを考えたら、こんな建物に現時点で約650億円かけるより、他に予算をまわす事があるのではないかと定禅寺通りの車線減少工事などが、計画したから実行する！ご理解ください！ではなく、計画変更や中止なども含め、もう少し市民の意見を聞いてほしい。今は、この計画で得をする一部の賛成派だけの意見で進めていないか？ そもそも、震災後15年近く経って「震災メモリアル」と名づける施設を作る意味がわからない。施設が完成すれば震災関連の展示や何かもするのかも知れませんが、これは、音楽ホールを作るために「震災」と無理矢理結びつけただけではないか？ 私は仙台市にこんな多額の費用をかけた施設は不要だと考える。断固反対だ。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点を先行して整備してまいりました。本施設は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合整備するもので、こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定した上で、基本設計を進めてきたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費の精査や財源の確保に取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
57	演劇や歌手用のホールはあるので、海外オーケストラの方々が来てくれるような外見や有名建築家などにお金をかけず、楽都の名に相応しい音響重視のクラシック専用ホールを希望する。仙台から世界に羽ばたく音楽家が育つように、駅から近くて通いやすい場所を希望する。パイプオルガンも設置して音楽の幅も広げていただけたとありがたい。 また名古屋市栄のホールのように、アートライブラリーを設置して芸術に関する情報、資料を閲覧、レンタルできるようにして欲しい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定していないところでございますが、生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。 転換型ホールでも、十分な重量のある音響反射板を備え、音響性能に優れると評価されている施設が全国に多数ございます。本施設も同様に、上記音響設計会社の知見を十分に生かしながら、高く評価される施設を目指してまいります。 整備予定地は地下鉄東西線国際センター駅に隣接しており、公共交通機関で通いやすい場所となっております。 また、仙台の文化芸術の過去と今にまなざしを向け、将来に向けた創造の資源としていくため、本施設における公演・活動の記録をアーカイブとして遺していくことに留意するとともに、先人の功績の顕彰、音楽にまつわる様々な情報の収集・集積などに取り組みたいと考えております。	令和8年 2月12日
58	1.練習室の利用料を安くしてほしい。 2.歩くところは幅広くしてほしい(白杖があたる)。 3.音響の良いホールになることを願っている。	1.使用料の額を定めるのは今後の段階となりますが、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割などを踏まえながら、検討を行ってまいります。 2.誰もが安心して利用できる施設を目指し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえて設計を進めてまいります。 3.本施設では、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、コンピューターシミュレーションや音響模型実験などを通じて生の音の優れた音響性能の実現を図ってまいります。	令和8年 3月16日
59	※2月1日の「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会を踏まえてのご意見 1.車椅子の方の質問ででていた、センサリールーム(センサリーフレンドリールーム)と、回答で触れていたクワイエットスペースは用途や機能が違うので、しっかり世界基準で検証してほしい。 2.視覚障害の音楽家の方が意見で伝えていた、地下鉄やバスの利便性と、コンサート時における増便については、リアルで鋭い視点だった。この見本市に来るとき、この方は、全盲のご夫妻でタクシーで来られており、かつタクシーを降りた歩道からせんだいメディアテーク内の会場までは、ほんの数十メートルではあるが、通行人の方がボランティアで誘導してきた。さらに、帰路は、自宅最寄り行きのバス停のある電力ホール前バス停まで、わざわざ別のボランティアを調整し、せんだいメディアテークから移動していた。このご夫婦は仙台でもまれなアクティブな方である。仙台市だけでも2000人いると言われている視覚障害の方たちに、様々な角度からアクセシビリティを実現してほしい。 3.ろうの女性が、意見を伝える場東京文化会館の演目やアクセシビリティにふれていたが、仙台市で委嘱した東京文化会館やKIITOの専門家と仙台市民や設計者がともに学ぶ機会をつくってほしい。 4.参加者の方の発言によって、音楽の捉え方や災害文化の議論の不足が明らかになった。また、東北福祉大学の教員が障害当事者参加型のデザインプロセスを直前に発表した(※「大見本市」の中で、本見本市の1つ前に行われた、東北福祉大学共生まちづくり学部石塚裕子教授による発表が行われた)ことで、本来あるべき市民とのワークショップの作り方にヒントを得られたと思う。今後の、専門家との連携にもっともっと、仙台の資源を使っていただきたい。	1.本施設は、文化芸術と災害文化の拠点という施設特性を踏まえ、心を落ち着け、大切な人やあたりまえの日常に静かに想いを巡らすことができるクワイエットスペースという空間を設けますが、これとは別に、センサリールームに相当するものとして、大ホール・小ホールに、遮音性があり誰でも安心して公演を鑑賞できる部屋を設けます。また、気持ちや体調を整えるために一時的に避難したり休憩したりできる場所としては、施設の各所に外の空気に触れられるテラスを設けるほか、イベントの性質に応じて仮設のカムダウンスペースを設けるなどの運営上の配慮もしてまいりたいと考えています。引き続き、障害のある方やその支援をする方からのご意見を伺う機会を設けながら、誰もが安心して来館できる施設を目指してまいります。 2.駅と施設をつなぐ動線は、段差がなく雨に濡れずに施設に入れるようにするほか、タクシーについても乗降場所を適切な位置に配置できるよう計画を進めております。誰もが安心して来館できる施設となるよう、引き続き障害のある方から意見を伺う機会を設けながら、設計を進めてまいります。 3.本市では、施設運営や事業等について専門的な見地からの意見や助言を得るため、東京文化会館やKIITO(神戸デザイン・クリエイティブセンター)の方を含む4名の管理運営アドバイザーを委嘱しております。管理運営アドバイザーから市民や設計者がともに学ぶ機会の場を設けることについても検討してまいります。 4.ホールのあり方、音楽の捉え方、災害文化など、施設の運営について市民の皆様とともに深めていく市民共創型の対話の場を、今後設けていきたいと考えております。また、障害のある方と意見交換する機会を今後とも設けていくとともに、様々な分野の専門家にご協力いただきながら、あらゆる人に開かれた施設の実現を目指してまいります。	令和8年 3月16日
60	音楽ホールの席数について削減の意見があるようだが、是非2000席以上の今の計画でお願いしたい。全国規模の音楽イベントはこの規模が必要だ。安易に減らしたら2度とできない、私は市民合唱団で活動しているが日立システムズホールの演奏会の日にちを押さえるのにとても苦労している。その緩和のためにもよろしく願いたい。	「楽都仙台」としての文化芸術をさらに発展させる拠点を目指し、いただいたご意見を踏まえながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
61	音楽ホールに関して、コンサートをやる側にとっても使いやすいホールとなることを切に願う。そのためには、コンサートをやる側の方々(演奏家等)をアドバイザーとして迎えることが必要だ。 例えば、シンガーソングライターの小田和正氏は過去のインタビューにて、大学～大学院にて建築を専攻した経験を踏まえて、建築物としてのコンサートホールについて私見を述べている。その概要は以下のとおり。 ・コンサートやる側の人間のことを考えていないのがほとんど。 ・音楽ホールでいちばん使用頻度の高いのは、明らかにクラシックではないはずなのに、「ここはオペラもできます」って、誰がここでいつオペラやるわけ？ ・いちばん最初に、どうしたら客と演奏者が一体になれるか、を考えるべき。 ・音楽ホールの設計については、楽屋とか搬入口とかのことも含めて演奏者に聞くべき。 ・維持するだけで赤字、毎日全部埋まったとしても赤字、建てるの金がかかりすぎて採算取れないのは、造る前からわかってたこと。(東京国際フォーラム) ・間口が広くてステージが広いのがいい。見切れない。(大阪フェスティバルホール) ・客席がずーっと後方まである奥行きが深いところは一体感がない。 ※ 出典:「小田和正インタビュー たしかなこと」(小貫信昭・著、ソニーマガジンス・刊、2005年3月18日発行)pp108-111 2千人規模のホールでのコンサートとなれば、照明や音響関連の機材も大掛かりなものになることが多いと思う。特に搬入口については、搬入が大変という所が多いようなので、せっかく新しく設計するのであれば、この点も充分に考慮していただきたい。	劇場や音響設計の専門家を含む体制でホールの設計を進めているとともに、中間案の発表後には地元プロモーターなど実際にこのホールを使用される方々からご意見を伺う機会を設け、そこでいただいたご意見を踏まえて来場者動線や搬入口の利便性などの改善を図っているところです。多様な演目に対応し、公演主催者にとっても観客にとっても使いやすい施設となるよう、引き続き多くの方のご意見を伺いながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
62	2/1の見本市の検討会(「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会)に参加した。視覚障害者支援に携わっている。視覚障害当事者複数の方と参加したが、今後についてお願いがある。 視覚障害者のための会議資料が何も用意されておらず、非常に残念だった。点字版の資料、触る模型などがあればわかりやすく、意見を述べたり、お願いができたりしやすくなる。配慮に欠けていたと思う。 今後、障害別の会議を予定しているとのことだが、視覚障害者にとって必要な資料の準備をお願いしたい。なお、点字資料は就労継続支援B型事業所がある。優先調達推進の観点からも、併せてよろしく願いたい。	今後も障害のある方からご意見を伺う場を設けてまいりたいと考えており、いただいたご意見を踏まえ、視覚障害者の方にとって分かりやすい資料の提供に努めてまいります。	令和8年 3月16日
63	全く無駄である。古いインフラの整備等やるべき事が有る。仙台市は金持ち自治体なのか？仙台市役所、泉区役所等箱物ばかり金を使うのは納得出来ない。又計画の建物もライフサイクルコストの掛かる建物となっている。白紙撤回を願う。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただけており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ねてまいりました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 コスト意識を強く持つとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
64	1.仙台市若林区には、すでに「せんだい3.11メモリアル交流館」が設置されている。その現状を踏まえると、青葉区青葉山に新たな複合施設として東日本大震災メモリアル拠点を整備する意義や必要性について、より明確な説明が求められるのではないか。まずは既存施設の改修や増築、さらには機能強化や認知度向上に取り組み、その活用を一層図ることが優先されるべきだ。 2.また、新設予定の音楽ホールについては、「仙台医療センター」跡地に移転予定のホール(※宮城県民会館)との役割分担やコンセプトの違いを、より明確に打ち出す必要がある。仮に新設するのであれば、中途半端な規模や仕様にとどまるのではなく、世界最高水準を目指した設備・音響性能を備えた、国内外に誇れる施設となることを期待する。 3.さらに建設地については、計画が進んでいる現状では難しい面もあるのかもしれないが、都市の「顔」としての象徴性や集客力を重視するのであれば、仙台駅周辺の土地活用も検討に値したのではないかと。都市全体のにぎわいや回遊性の向上という観点からも、立地の在り方について改めて議論が深まることを望む。	1.震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点を連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。 中心部拠点では、沿岸部の施設が積み重ねてきた蓄積をもとに、未来の災害に備え、乗り越える知恵や術を市民の皆さまとともに創り出していく役割を担うものであり、既存の施設と密接に連携してまいります。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて既存施設の活性化にもつなげてまいります。 2.本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。また、世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと、生の音源に対する優れた音響性能を追求しております。こうしたことにより新県民会館との役割分担を図りながら、仙台の文化芸術をさらに発展させ、国内外から人を惹きつけ、市民の誇りとなる施設を目指してまいります。 3.青葉山エリアは豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、大手門復元やこどもの屋内遊び場の整備といったプロジェクトも進行している。本市にとって象徴的な場所であり、本施設の整備を通じてこのエリアをさらに魅力的で多くの人を惹きつける場所とすることで、仙台のまち全体の活性化や都市ブランドの向上に貢献できるものと考えております。また、都心部も含めた回遊性を向上させるための様々な取組みも行っております。 なお、仙台駅周辺での整備につきましては、敷地の確保が課題となるものと認識しております。例えば、旧さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年 3月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
65	・懸念(事実ベース): 総事業費が約646億円規模まで増額している理解(整備費623億円+備品等23億円)。物価上昇で、今後も増額の可能性がある点。 ・懸念(評価・影響): 将来の運営費・維持更新費が増える局面で、財源は実質的に税負担に跳ねやすい。既に財政が厳しい中で、現役世代・将来世代の負担増(税負担・サービス削減)になる。 この音楽ホールができたことで観光客が増えるとは思えない。市民の利用も市民がより高齢化する中で利用が増えるとは思えない。そんな財源あるなら、若者や子育て世代への還元を増やすべき。 ・求めたいこと: 運営費・維持更新費の年次見込み(30年・50年など)と、その財源内訳は？ 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れレンジ(幅)を、なぜ示せない／示さないのか？ 既存施設の改修や規模縮小など、代替案と費用対効果を同じ条件で比較した資料はあるか？ 市が述べる財源確保(企業版ふるさと納税・市債等)の見込み額と確度、不足時の対応は？ 今後さらに増額した場合の意思決定ルール(どこで立ち止まるか)は設定しているか？	運営費・維持更新費につきましては、年間約18億円を見込んでおります。その財源として、施設使用料収入約2億円、チケット収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めることとしております。 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れ幅や代替案との費用対効果の比較につきましては、様々な要素が複雑に関わってくるため具体的な金額のお示しは困難でございますが、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、コスト縮減に努めてまいります。 財源面につきましては、現時点で見込んでいる市債額は476億円であり、今後はさらなる地方交付税措置のある地方債の活用や、活用可能な国の財源の検討、企業版ふるさと納税など外部資金の確保を進めることで、本市の財政負担の軽減を図り、整備状況を丁寧に説明しながら整備プロセスを進めてまいります。	令和8年 3月16日
66	仙台市に巨額の音楽ホールと、災害文化と称してする複合施設は不要。青葉山に作ってどの位の集客を見込んでいるのか？ 県の音楽ホールと同じ程度のものが必要とする後付けの災害文化は要らない。この複合施設に付いて住民投票をして賛否を問うべきと考える。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴しました。宮城県・仙台市それぞれにおいて需要想定調査を実施し、新県民会館と本施設の双方に十分なニーズがあることも確認しております。 また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ね、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。 年間来場者数の見込みは約54万人、うち県外来場者は約4万人と試算しており、魅力的なコンテンツの開発、新規の顧客を戦略的に増やしていく取組み、建築物の個性を生かす取組み等を行うとともに、青葉山エリア一体としての観光振興の取組みと連動していくことによって、更なる県外来場者の獲得を目指します。 引き続き、市民の皆様との対話の場を設けるなど、この施設についてのご理解の輪を広げることに取り組みながら、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 3月16日
67	建設反対。地下鉄の多大な借金に残る中さらに600億もの借金をするなんて仙台市が破産してしまう。その責任を都市長はどうとるのか。もしお金があるなら、今ぎりぎりでごんばってる現役世代のため、本当に困っている老人、子育て中の人のため幼稚園保育園、学童保育等の整備に使うべき。 また、建設の目的を果たすために使用目的を追加しているようだが、最近の市内各ホールの使用を見ると、オペラはない。また仙台フィルも定期演奏会以外で特別な企画公演を聞いたことがない。音楽堂といってもその土壌がないように思う。今さらだが音楽堂が必要であるという気運をたかめるような仙台市の努力も感じられない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 引き続き、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 5月12日
68	①「本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めていく。」と言いながら、仙台市ホームページのトップに複合施設に関する情報がないのはなぜか。理由を教えてください。複合施設に関する情報をわざと見つけにくくしているようにしか思えない。 ②音楽ホールを必要人は少数なのは明らか。整備するなら利用料を高く設定して、受益者負担の割合を増やすのがいい。音楽ホールはほしい、しかも安く使いたいでは、単なるご都合主義だろう。欲しい人がお金を負担するようにすべきだ。 ③自分は音楽ホールがなぜ必要なのか分からない。市当局も、復興で音楽の力が果たした役割が大きい、経済効果がある、音楽ホールがほしいという声があったとか、場面場面でその場しのぎのようにいろいろな理由を述べているが、話に一貫性がないので、全く心に響かない。経済効果があるなら、なぜ過去に音楽ホールの整備をするのを断念したのか。その時と今では何が違うのか？全くその辺の説明がないので納得しない。 その辺をあらためてホームページ等で説明すべき。整備に1,000億円もかかると思う。ステークホルダーへの説明が不足している。仕事の進め方が雑である。	①現在、仙台市ホームページトップの下部「取り組みを知る」より、本整備事業に関するページにアクセスできるようにしております。情報発信については、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。 ②施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。 ③本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。本施設は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合整備するもので、こうした状況を踏まえ、基本構想および基本計画を策定する各過程でパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら進めてきたところです。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費の精査や財源の確保に取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 引き続き、市民の皆様との対話の場を設けるなど、この施設についてのご理解の輪を広げることに取り組みながら、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
69	建設物価調査会の物価指数をはるかに超える予算増となっている。設計者に予算管理能力があるのか疑問に思う。また、維持管理費を設計者自らがきちんと試算できているのか？あの形状での漏水、地震時の層間変位によるガラス破損・脱落は設計責任になると思うが、検証しているのか？	設計にあたっては、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら進めております。 今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、引き続きコスト縮減に努めながら、誰もが安心して来館できる施設となるよう、設計を進めてまいります。	令和8年 5月12日
70	今回の計画には数々の問題点がある。解決せずに進めると、将来への負債となり得るため、早急に見直していただきたい。 1.収益性 国立博物館でさえ高い目標値が掲げられた。ましてホールは人を集めることが前提の施設であり、極端な赤字は許されない。現在の規模で進めた場合、維持費も念頭に真に黒字化が可能なのか、仙台市民に示していただきたい。 2.複合施設の意味 時間が経過し、記憶の風化が進む中、本物の持つ力がより意味を持つようになっている。何故青葉山にメモリアル拠点なのかわからない。ハブとして、青葉山を起点に地下鉄を使ったツアーを企画しているのかもしれないが、それなら国際センターや緑彩館、若林区役所、荒井駅等で十分である。遠方からの来館を期待するならばバスを停められる駐車場が必要だが、難しいと思われる。誰の利用を想定しているのかが見えてこない。もし観光を兼ねて「青葉山で」震災にも触れてほしいというのであれば、海岸方面の被害を知る一人として不愉快である。	1.運営費・維持管理費につきましては、施設使用料やチケット収入・補助金等のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めることとしており、指定管理料などの本市の財政負担の軽減を図ってまいります。 2.中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ね、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて既存施設の活性化にもつなげてまいりたいと存じます。 本市はじまりの地である青葉山エリアは、文化、歴史、学術資源が集積する地でもあり、本施設の持つ意義を最大限発揮することができる立地であると考えております。	令和8年 5月12日
71	3.立地について 歩いていける距離に東北大の萩ホールがある。差別化をどのように考えているのかわからない。小ホールの活用など、明確に打ち出すべきではないか。また、周辺道路の渋滞対策を丁寧に実施してほしい。この周囲は車線が少なく、朝夕の渋滞がひどいが、迂回路がない。黒字化のためには県外(東北や北関東)からの来客を当然想定していると思うが、車で来仙した場合の誘導を含め計画してほしい。(ここが甘いと当然他のホールに客を取られてしまう)加えて、高校・大学入試のときは導線が重なるため、ホールをイベントに貸し出さないようにしないと、大きな批判が起きかねない。 4.震災復興の予算として 先日避難所にもなった中学校の体育館での行事に参加したが、カーテンには穴が空き、大型暖房も効かず、大変寒い経験をした。当然夏は暑いだろう。周辺は高齢化が進んでおり、もした避難所となった場合、震災関連死は避けがたいと思われた。また、沿岸部の道路は毎日渋滞がひどく、急な津波が来た場合に、震災前以上の被害が起きかねない。メモリアル拠点を建てて、本来の震災対策が疎かになるのは嘲笑ものであり、万一次の震災が発生したときに全国から批判が集まるだろう。逆に、複合拠点を避難所として活用する予定があるなら、今の段階で明示したほうが理解はまだ得られると思われる。	3.本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。加えて、生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。 青葉山エリアでは、イベント時などにスポッ的な交通渋滞が発生することは課題であることは承知しており、運営にあたっては、交通局や近隣施設とイベント等の開催情報を共有し、公共交通機関の利用の周知を図るなど工夫してまいりたいと考えております。 4.本施設は、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、普段から災害に備え、災害から立ち上がる力を広める役割を目指しているため、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、帰宅困難者の一時的な受け入れなどのために必要となる物資の備蓄庫を1階に設けております。将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 5月12日
72	・特徴的な外観を作っているのに、その説明が少ししか書いてない。パブル時代の象徴のようで、気持ち悪い。 ・災害文化とは何か？ ・日常の居場所とは？そもそも日常的に人が集まる周辺環境ではない。 ・工事費の精査を進める、と書いてあるが、設計の工夫をすることで工事費の縮減を図る、の間違いではないのか？	本施設は、東日本大震災の伝承のみならず、震災からの復興過程で認識された文化芸術の力も生かしながら、これからの災害に備える知恵や術、災害が起きたときに立ち上がる災害文化の力を育み、国内外に広げていくことを目指しております。また、将来を担うことも若い人に多様な文化芸術体験や災害の学びの機会を提供することを重視しています。 文化芸術と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。 青葉山エリアは豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、大手門復元やこどもの屋内遊び場の整備といったプロジェクトも進行しているエリアであり、このエリアをさらに魅力的で多くの人を惹きつける場所とすることを目指しております。 整備にあたっては、コスト抑制の意識をもって、設計を進めてまいります。	令和8年 5月12日
	音楽制作(J-POP)に携わる者として、今般の施設完成に大きな期待を寄せている。その上で、以下の2点について要望する。 (1)市民が利用できる音楽参加スペースの充実 市内には音楽・ダンス利用者が多く、リハーサルスタジオやライブハウスも常に稼働している。新施設においては、音楽やダンスを十分に練習でき、市民利用施設予約システムで容易に予約できる環境を整備してほしい。 近年は、YouTube配信者やDTMによる個人創作が増加していることから、2～3坪程度の小規模防音スペースを複数設け、少人数・個人でのレッスン、配信、制作活動が可能となれば、アーティスト創出の機運が広がり、若年層の来仙・移住促進にもつながると考える。 (2)デザインの簡素化と安全確保 公開されている外観およびロビーのイラスト、とりわけ大階段の構造について、終演後の観客の安全な退出という観点から強い懸念を抱いている。降下するにつれて幅が狭くなる階段は、終演後の混雑時に滞留や衝突を招き、群衆事故の危険性が高い。加えて、階段下に設けられた段差のあるスペースについても、転倒・落下の恐れを感じる。 意匠性よりも人命および身体的安全確保を最優先とし、再度の検証を求めたい。また外観についても、装飾的なデザインに経費を割くより、実際に音を出し、活動できる空間の充実に投資する方が、「多様な活動が共存し響き合う」という施設趣旨により適うと考える。装飾要素を増やしても響き合いは比例しないが、音を鳴らせる空間を増やせば、自然と響き合いは広がる。 音楽に携わる者の一意見として、特に安全面については人命に直結する問題であり、改めて慎重な検討を強く要望する。	(1)本施設には、大ホールの他に約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオ、練習室(大・中・小)を2室、収録室を設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。 (2)1階交流イベントロビーは、ホール来場者に限らず、誰もが気軽に立ち寄り、居場所を見つけられる「開かれた広場空間」となることを目指しています。一方でロビーの段差については、これまでの意見交換等も踏まえ解消を図っており、また動線計画や運用面での工夫については、誰もが安全に利用いただける施設となるよう引き続き検討してまいります。 施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。音響設計会社の知見を十分に生かしながら、高く評価される施設を目指してまいります。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
73	音楽ホールは不要であると考える。なぜ今、仙台市に音楽ホールが必要なのか、明確な説明を求める。 賛成派は「仙台市には専用の音楽ホールがない」と言うが、それならなぜこれまで整備されてこなかったのか。過去に整備構想が断念された理由は、厳しい財政状況の中で、一部の利用者に限られる施設よりも、市民センター等、より多くの市民が利用できる施設を優先したためであったと聞いている。財政状況が変わらない今、仮に音楽ホールを整備するのであれば、市民センターや文化センター等の公共施設の廃止・統廃合も併せて検討すべきである。その考えがあるのか示してほしい。 また、運営主体も重要である。仙台市市民文化事業団が運営予定と聞が、同事業団が運営する施設に、十分に活性化している例は見当たらない。多額の公費を投じる以上、運営団体の選定についても、外部有識者による公開プレゼン・審査を行うなど、透明性を確保すべきである。公開選定を行う考えがあるのか。未定であれば、いつ頃決定するのか回答を求める。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところであり、既存施設では対応できなかった多様な公演のニーズ、市民の皆さまの多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 また令和2年度に実施いたしましたホール体系整理において、既存のホール施設の位置づけを改めて整理するとともに、老朽化が進む市民会館や震災復興記念館のホール機能につきましては、音楽ホール開館後は施設の更新は行わない方向で整理をしたところでございます。 指定管理者については、公募によらない選定とし、市と指定管理者が連携した開館準備を早期から進める方針としており、今後具体的な検討を進めてまいります。	令和8年 5月12日
74	仙台市内に宮城県立劇場ができるのに、なぜ仙台市でも音楽ホールが必要なのか。県立劇場ができて、稼働状況なども見定めて、本当に必要なら、仙台市でも作ればいいのではないのか。需要予測はしているようだが、需要予測は、数字をいければ何でもなる調査である。こんなにお金をかけてまで音楽ホールを作る必要はないのではないのか。	宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれております。 また、仙台市民会館(1973年開館)や震災復興記念館(1981年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としており、市民会館や震災復興記念館の各ホールで受け止めてきた需要を、宮城県立劇場一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様に多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供してまいりたいと考えております。	令和8年 5月12日
75	外観のデザインは仙台市にゆかりのある、震災を間近で体験した設計者に依頼すべきではないか。 木片をアンバランスに組み合わせたデザインは、震災津波で流されたガレキを思い起こさせる。震災を肌で経験した人なら、あのような発想にはならないと思うが、いかがか。	基本設計者選定においては、公募型プロポーザル方式を採用し、設計の方針や技術的な提案を募って、設計者を選定したものです。 東日本大震災は本市にとって極めて重要な出来事であり、意匠や空間の受け止め方について様々な感じ方があることは認識しております。屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節し、段階的に設けることで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しを遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。	令和8年 5月12日
76	仙台市の現在の財政状況を踏まえた場合、本計画の規模や事業費の考え方について疑問を感じている。想定を上回る見積もりが示された場合に、際限なく費用を投じることができるのは、相当な余裕のある場合に限られる。現在の仙台市はどのような状況にあると言えるのか。もし余裕があるのであれば、近年導入にあたって議論を重ねてきた宿泊税はなぜ必要だったのか、という疑問も生じる。今回の事業費の上振れによって、宿泊税による収収効果が一瞬にして蒸発しないか。 40年にわたり整備が進んでいない都市計画道路については十分な予算が充てられず、市民が日常生活において交通の不便や事故のリスクにさらされている現状がある。ここまで仙台が全国から羨望される都市になったのも、有益な予算執行を続けてきたからこそだと思う。今回の計画の進め方は、そうした長年の信頼を損なうおそれがある。伊達政宗公が家訓において質素倹約の重要性を説いたように、見栄や過度な豪華さは、将来的な負担を招きかねない。 昨年、設計者による説明会が開催されたと承知しているが、設計者が誰であるかによって、市の公共施設としての価値が左右されるものではない。市民が求めているのは、設計の説明以上に、意思決定を行った責任者から説明がなされることである。仮に市長自らが本計画の説明を行った立場であるのであれば、その判断に至った経緯や考え方について、責任ある説明を強く求める。	複合施設の整備にあたっては、今後ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、工期短縮、コスト縮減に取り組むとともに、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保するよう、財政部署とも協議し事業を進めてまいります。 今後、5月13日と5月23日の市民説明会、6月6日のシンポジウムにおいて、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、多くの方にご理解いただきながら事業を進めてまいります。	令和8年 5月12日
77	すぐそばに東北大学の萩ホールがあり1200名は入ると思う。それを活用して、仙台市の音楽ホールを縮小することは可能ではないか。縦割りの考え方は令和においては古い。また大きなコンサートは娯楽なので、当面セキスイスーパーアリーナでよいのではないのか。県の施設と一本化することも考えられる。 またこの複合施設の建築デザインが複雑で、設計料、建築費がかさむ。複雑な建物は傷みやすく、維持費が高くなる。建築には特注の部品が次々と発生し、年月がたつとその部品すら調達することができなくなる。メモリアル拠点であればこそ長続きする建物、仕組むが必要。そのためにはシンプルさと修繕のしやすさが重要である。 市の施策は有力者が決めたらその方向に行き、止められないことが報道や映画、ドラマで知られている。そうならないか?閉鎖的な組織で作られた施設は、結果閉古島(赤字・重荷)の施設になる。今も未来も650億円以上かかる建物が必要か。庁舎を新しくしたばかり。今後下がる見込みのない不安な物価高の中、今は少子化対策や病院の財政安定、市財政の健全化集中した方がいいと思う。ものの未来より、ヒトの未来と思う。アイデアはいくつもあろうと思う。特に若い市職員の皆さんはどう思われるのか。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、整備の検討を進めてきたところでございます。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらし、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。 整備にあたっては、利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら進めてまいります。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
78	今回の音楽ホールの完成にあたり、文化芸術の発信拠点として仙台の地が注目を集めることに、大きな期待を抱いている。 建設費高騰の扱いについては、今後の議論を経て一定の結論に至るものと考えるが、私が憂慮しているのは、完成に向けて施設側の事情が優先され、主催者や演者といった利用者側への配慮が十分に検討されているのかという点である。 まず気にかけているのは、施設の利用料である。コンサート等でホールを使用する際の利用料は、主催者が会場を選定する際の大きな要素となる。仮に、建設費高騰への対応として「利用料を適正に設定する」という名目で割高な料金設定がなされれば、主催者はチケット価格を引き上げざるを得ない。しかし、物価高騰が続く現在において、高額なチケットでも集客できるのは、一部の知名度や動員力を有するアーティストに限られる。 利用料が高くなればなるほど、本施設の利用を避ける主催者が増え、稼働率が下がることも想定される。「利用料を上げれば支出増を補える」という単純な発想ではなく、稼働数を見据えた緻密なシミュレーションに基づく料金設定が必要ではないかと考える。利用料金については、むやみに割高とならないよう、慎重な検討を求めたい。 もう一点、念頭に置いていただきたいのは、「演者・アーティストの修練の場の環境整備」である。音楽ホールは完成品を見せる場である一方、演者・アーティストが多く時間を費やしているのは日々の修練である。また、豪華な生活ができる演者はごく一部であり、多くは質素な生活の中で音楽と向き合っていると想像する。 世界最高峰の設備を備えた音楽ホールを擁する都市を目指す一方で、修練の場が地方都市並みに留まるのであれば、それは芸術を慈しむ心を欠いた美術館のごとく、至高の芸術品にカビを生やす空虚な拠点となってしまう。施設の目的が「完成品を見せること」であるのは当然だが、足元の音楽振興が軽視されれば、せっかくの藤本壮介氏の創作建築も「見栄っばりの象徴」として揶揄される恐れがある。 については、演者・アーティストが低廉な料金で十分に修練できる小規模スペースを、音楽ホール複合施設内または周辺に整備し、仙台の地で技能を磨き続けられる環境づくりについて検討をお願いしたい。 本施設の完成は、「仙台＝音楽芸術都市」を世界に発信するまとないチャンスであると同時に、仙台市が文化芸術の根幹とどこまで真摯に向き合っているかが問われる場でもある。 施設側、主催者・演者側、観客側の三者がともに利益を享受できてこそ、本施設は真に評価されるものとなる。世界最高峰にふさわしい成り立ちと運営がなされることを、一市民として切に期待したい。	本施設では、これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラ公演、オペラ・バレエなど総合舞台芸術の本格的な公演、文化芸術の大規模な大会などが開催されることを見込んでおります。施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。 本施設には、大ホールの他に約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオ、大・中・小合わせて12室の練習室を設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。 本施設は乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しております。また、市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方が最高水準の舞台に立つことで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。このように、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様には豊かさをもち、仙台の新たなランドマークとして国内外から多くの人を惹きつける拠点となることを目指し、整備を進めてまいります。	令和8年5月12日
79	音楽活動をしている者だが仙台に2つの音楽ホールはいらない。 仙台の賑わいを生むのに音楽ホールは必要という考えは一理あるが、音楽ホールを作れば必ず賑わいが生まれるわけではない。 要はその施設をどのように運用していくかが大事。仙台市は施設を作ることが目的化しており、その後のことは抽象的な説明しかない。 作るのを急がず運営の具体的なビジョンを明らかにすべき。説得力ある具体的な説明があるまで事業は凍結すべき。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様には豊かさをもち、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。	令和8年5月12日
80	複合施設の必要性をもう少しわかりやすく発信してはどうか。市の説明が漠然としていて、いまいち伝わってこない。機械的な説明で、市の本気度が伝わってこない。 市が見積もっているいる経済効果の積算根拠を具体的に示してほしい。第三者が検証することで、見積もりの妥当性を検証できるのではないかと。また、市民の意見を真摯に受け止め、誠実に回答してほしい。意見を無視された人もいる。自分に都合の悪い意見は無視して、都合のいい意見にだけ答えるのはいかか。情報開示請求をすれば分かることかもしれないが。	本施設では、既存の市内の類似施設や市内イベントの実績などのほか、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発、青葉山エリアでの立地を生かした周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、経済波及効果を推計したところです。 市民の皆様からいただいたご意見につきましては、すべての内容を確認の上、本市の考え方を公に回答させていただいております。整備の必要性や、この施設がもたらす価値について市民の皆さまと対話を重ねながらご理解をいただくとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年5月12日
81	物価高騰の折、建設コストが3倍以上に膨らみそうだが、東京都中野区サンプラザ再開発構想でさえ一旦立ち止まり再検討を行っている。仙台市においても一旦白紙撤回し、再検討する事を望む。 また宮城県民会館もオープンする予定だが、県と市での事業競争の様で醜い。特に仙台市の音楽ホールの外観は遺構を作りたいのか屋根など重視した煌びやかな外観。これだけ凝った外観では建築コストが高くなり、また後々のメンテナンス費用もかなり高額なものになりそうである。外観に拘らないシンプルな外観にし、ホール音響効果重視の音楽ホールの方が良いと考える。 なお仙台市として、どうしても建設したいのであればPFI事業も検討してはどうか。是非とも一旦立ち止まり、外観より音響の質重視での再計画を望む。質実剛健！	建設費用は、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、実質的な市の財政負担の軽減に努めてまいります。また、今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。 屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。全体的に統一性があるデザインという視点は重要であると考えており、様々な視点を想定しながら、総合的に検討を進めております。 世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、宮城県立劇場との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。	令和8年5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
82	県外出身で舞台芸術に携わり愛する者の意見として受け取っていただければ。生まれは香川。広島、東京と移り住み仙台に来て25年経ったが、仙台は東北一の大都市。立派な劇場があり地方ではなかなか見れないバレエやミュージカル、コンサートがたくさん鑑賞できると期待していたが、正直がっかりした記憶がある。新劇場はこの25年間完成することはなく、観たい！と思うものは仙台には来ず東京まで観に行くことも度々あった。新劇場は仙台駅直結にすべきと思っていたが、それはもう実現しそうにないと思っている。今年、東京文化会館が休館に入る。引越し公演ができるほどの劇場までは望まないが、早く新劇場が完成していれば、休館する数年の間東京文化会館で行われていた様々な作品を仙台に誘致できたのでは？とても残念に思った。関東からたくさんの方が観に来たはず。せっかく仙台に来たからと観光もしたでしょう。今でも、熱心な方は東京や他都市からも仙台に観に来られる。東京、大阪、名古屋などではすぐsold outしてしまう人気のチケットが仙台なら手に入るからである。裏を返せば、仙台では空席があると言うわけで、素晴らしい舞台なのに申し訳なく悲しくと思うこともしばしばある。仙台市民の舞台芸術への興味関心の低さの現れとも感じる。仙台の劇場の大きさに合わせたコンパクトな編成の舞台ではなく、正真正銘の本物の舞台芸術に触れることのできる劇場を作してほしい。本物は知識がなくても心に刺さる。仙台市民、子供たちの舞台芸術への興味関心が高まることを切に願う。日本中があっと驚くようなカンパニーを仙台に！日本中の人々がチケットを競うような作品を仙台に！演じる側も仙台でやりたいと思える劇場を仙台に！それは仙台市民の誇りになるのでは。	本施設はプロの公演を鑑賞するだけではなく市民も舞台上に上がったり、展示を見学するほか、災害に関する研究を専門家や企業とともに進めたりするなど、市民が多様な主体と協働し、様々な活動や提案を行う「みんな」で育む施設を目指しております。多くの市民の皆様が文化芸術に触れるきっかけとなり、また、市民の皆様から愛され、国内外からも多くの人を惹きつける施設となるよう、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 6月5日
83	・600億をかけて複合施設を作る必要性はない。 ・昨今の中東情勢の悪化でさらに建設費が上がったと聞いた。建設費を正直に開示すべき。 ・市が算定する経済効果も怪しい。前提条件を開示すべき。 ・将来、事業の効果を検証できるように責任の所在を明確にしてほしい。この意見に対する回答も誰の回答なのか明確にしていきたい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただけており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。建設費については設計が具体化する中で設計事業者とコスト削減の協議も重ねながら費用を算出し、コンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえで金額となっております。引き続き、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。また、経済効果は施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。開館後においては、今回算出した額を上回る効果額をもたらせるよう取り組んでまいります。なお、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答としております。	令和8年 6月5日
84	基本計画のところに「今後は、本基本計画に基づき、設計者選定に向けた準備を進めてまいります。」とあるが、藤本さんが設計者ではないのか？藤本さんが設計者でないなら、藤本さんの位置づけが分かりづらい。単なる修正漏れであれば誤解を与えないように修正が必要。 https://www.city.sendai.jp/aobayamaeria/hukugoushisetsu/seibi/kihonkousou_kihonkeikaku.html	基本計画策定当時の記載の表現となっておりましたため、現時点における内容に修正いたしました。なお、整備事業としては、基本構想→基本計画→基本設計という順で進んでおり、令和6年度に公募型プロポーザルにより株式会社藤本社が建築設計事務所と基本設計業務委託契約を締結し、令和8年3月に基本設計が完了したところであります。	令和8年 6月5日
85	複合施設の管理運営団体は公募すべきだ。少なくとも市民文化事業団に委託することのないようにしてもらいたい。現在の青年文化センターやメディアテークを見ると、市民文化事業団に複合施設の管理運営団体に求められる能力があるとは思えない。ベガルタのように民間主体の運営にしていけばいい。	本施設においては、開館前の早い段階から高い専門性を持つ人材の確保や育成に努めていく必要があるとともに、本市の文化芸術・災害文化の総合的な拠点として、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりのある施設運営や政策と連動した事業展開が求められます。こうした視点を踏まえ、指定管理者は公募によらない選定とする方向で検討することとし、市と指定管理者が連携した開館準備を早期から進めます。	令和8年 6月5日
86	複合施設ができた後は、仙台フィルハーモニーへの1億円の活動補助金は削減すべき。せっかく立派な施設ができるのだから後は無駄なお金は使わず自分で稼いで貰えば良いと思う。	本施設では、仙台フィルハーモニー管弦楽団がレジデントオーケストラとして拠点的に活動することを予定しており、当該楽団の活躍が本施設の魅力向上につながるものと考えております。施設整備後においても当楽団の自主的な資金調達や経営努力は重要であり、経営基盤の強化を図りながら、精力的に演奏活動に取り組まれるよう期待しております。施設開館後の公的支援につきましては、同楽団の運営状況等を踏まえながら、適切な水準とするよう検討してまいります。	令和8年 6月5日
87	維持費が高すぎる、12億の支出で4億円の収入とはどう考えてもおかしいと思う。さらに差額の8億円は市民の税金をあてにすると、300億円の工事費高騰により予算増、今後の高騰は含めない、なぜこんなに数字が杜撰なのか。収入の4億円もふれるさと納税や協賛、寄付金とありますが毎年のことだ。明らかにその説明を市民へ説明すべき。経済波及効果は47億円の根拠はなにか。市民はこれからどんどん減る。それなのに市民の税金を当てにする建物とそれの維持ってなにか。誰かの自己満足に税金が無駄に使われるのは黙っていられない。人口が減っていく中でこれだけの負の遺産になるものを進めていって誰が責任を取るのか。今だけ自分だけ、ではなくもっとと深く議論してほしい。音楽ホールであるならば専門家の意見があってもきちんとしたホールを作らないと4億の収入なんて見込めるわけがない。維持費をペイできるぐらいの建物の構造を検討してほしい。	運営費・維持更新費につきましては、他都市の類似施設の水準も参考として年間約18億円を見込んでおります。様々な方に文化芸術に触れる機会を提供するなど公共的事業にかかる部分があり、公費負担はあるところですが、施設使用料収入約2億円、チケット収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めてまいります。また、経済波及効果額は、施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。魅力的な公演や多様な事業を展開するとともに観光施策と連携することで、観光消費額の大きい県外来場者及び宿泊者数の拡大を図り、年間87億円の経済波及効果が見込まれると考えております。音楽ホールについては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指しております。整備事業については、これまでパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。	令和8年 6月5日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
88	①市の経済効果の根拠が不明朗だ。経済効果は担当者の一存でいくにも操作できる。第三者が検証できるように、市の前提条件を公開すべき。 ②音楽ホール整備の責任の所在を明確にすべきだ。音楽ホール整備の失敗は目に見えている。将来、事業効果を検証するときに誰に責任があるのか明確にしておく必要がある。市民に対する意見を回答する際、誰の回答なのか明確にすべき。 ③なぜ音楽ホールが必要なのか分らない。音楽ホールが不要と考える人にも分かるように、音楽ホールの必要性を説明すべき。それが丁寧な説明というものだ。 ④仙台市のトップページから複合施設の整備について情報が取得できるようにすべき。そういうところに市の情報発信に係る消極的姿勢が見てとれる。 ⑤音楽ホールは必要ありません。即刻中止すべき。	①経済波及効果額は、施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。魅力的な公演や多様な事業を展開するとともに観光施策と連携することで、観光消費額の大きい県外来場者及び宿泊者数の拡大を図り、年間87億円の経済波及効果が見込まれると考えております。 なお、来場者数の見込み数の考え方については5月13日と23日に開催した説明会の資料にて記載しております。(資料については、本市ホームページでご確認ください。) ②複合施設の整備は市として取り組んでおり、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答をしております。 ③⑤本市では長年にわたり、約2,000席規模の音楽ホール整備を望む声が多く寄せられ、約1万人の署名や地元経済界からの要望を頂戴しています。また、文化芸術団体や公演主催者からは「市内でホールが予約できない」、「十分な舞台機能を備えた2,000席規模のホールがなく開催できない公演がある」との声がある一方、仙台市民会館(1973年開館)や戦災復興記念館(1981年開館)は老朽化が進み、本施設開館後は更新しない方針としています。本施設の整備は、需要への対応と既存施設の整理に加え、市民の皆様が日常的に文化芸術に親しめる環境を創出し、本市の魅力と発信力の向上に寄与するものと考えております。 ④現在、仙台市トップページに複合施設に関する情報を掲載しております。今後、整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年6月5日
89	建設業に携わっているが、すべての資材が高騰し、それどころか入荷未定で一般住宅さえ建築できないという先が見えない状態で、多くの企業で会社の存続さえ危ぶまれている中、今この音楽ホールの建築が本当に必要なのか。今後の見通しでは、見積りさらに多額の資金が必要となると思われる。庶民の感覚とはかなりかけ離れていると思われる。もっと市場がどうなるのか、みてみてほしい。そもそも材料はあるのか。 再度ご検討の余地があるのではないかと。ただの一意見(他のみんなもそう思うと思うが)なので通るとも思っていないが、ちょっと言わずにはいられない。	建築資材の確保については、着工が約2年後を予定しており、今後需給状況や価格動向について注視していきます。 一方で、本事業では今年度より実施設計に着手するとともに、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入する予定としていることから、設計段階から施工予定業者と連携し、資材調達の見通しや施工上の工夫を踏まえた検討を進めることが可能となります。施工予定業者が早期に関与することで、資材確保に向けた準備やリスクへの対応を前倒して検討できる点は大きなメリットと考えています。引き続き、こうした方式の利点を活かしながら、資材確保も含めた円滑な事業推進およびコスト縮減に努めてまいります。	令和8年6月5日
90	音楽ホールの建設に反対。私の周りに音楽ホールが必要だという人は1人もいない。私自身の文化的関心が低い可能性は否定しないが、それでも税金や保険料は滞納することなく適切に納めている立場である。 市の担当の方には、このような状況で音楽ホールが必要だという自分の感覚をおかしいと思った方がいい。音楽ホールを整備すること自体が目的化しているようにも見受けられる。 本当に音楽ホールが必要だと思うなら、後世の方がきちんと評価できるように、今の担当者の方は名前をさすすべき。その場しのぎで経済効果額を水増ししたが、結果的に後輩職員に負担を残すことになる。 今のままでは絶対うまくいかない。将来世代から批判を受ける施設を作ろうとしている。建築祭についても、後付けのように見えるものがあり、当初から十分に検討されていたとは思えない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところであり、既存施設では対応できなかった多様な公演のニーズ、市民の皆さまの多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。既存の市内の類似施設や市内イベントの実績などのほか、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発、青葉山エリアの立地を生かした周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、経済波及効果を推計したところであります。また、建築の魅力を活かした企画により、交流人口の拡大に大きく寄与するものと考え、そうした視点も含めて経済波及効果を見込んだところであります。	令和8年6月5日
91	根拠のない経済効果を提示するなんて、市の姿勢は不誠実。市はもう少し広報を考えたらどうか。 そもそも音楽ホールが反対の人は、経済効果が理由で反対しているわけでもない。 経済効果が上がったからといって、じゃ反対辞めすとはなりません。 市民とボタンの掛け違いが起きたまま突っ走ってもろくなことがない。なぜ音楽ホールが必要か、仙台市に音楽ホールがないと市民がどのように支障があるのか、どうして他の施策より優先順位が高いのかなど、分かりやすく説明する必要があると思う。	より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、情報発信の手法や時期を含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい広報に努めてまいります。	令和8年6月5日
92	計画している施設は、大変独創的で奇抜な外観ですが、暴風雨・大雪等への対策は大丈夫か。外観を見る限り、構造上、雨や雪は中まで入り込み、風にもかなり煽られそうな印象を受ける。さらに、雨や雪の後始末にも苦労しそう。 外観に拘ってコストが嵩むのであれば本末転倒、施設内部の充実に向けるべきではないか。	施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努め、誰もが安心して来館できる施設となるよう、設計を進めてまいります。	令和8年6月5日
93	事業費が増大していることに納得できない。 建設物価調査会の資料によると、建設費はR5からR8で15%程度の上昇。 設計監理費はR5技師C単価とR8技師C単価の上昇率は20%でしかない。 見込みが甘すぎて全くコストコントロールできていない。設計者の言いなりになっているだけなのではないか。設計者の責任で抜本的に設計を見直すべきと考える。	建設費用は、基本設計を進めるなかで、物価上昇のほか免震構造の採用などにより増額となったものであり、設計事業者とコスト削減の協議も重ねながら、コンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえで費用を算出しております。今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、引き続きコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。	令和8年6月5日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
94	なぜあのような奇抜なデザインが選ばれたのか、なぜあえて新たにこの地での震災メモリアル施設が必要なのか、市民が納得いく説明が欲しい。	設計者については公募型プロポーザルを実施し、デザインで比較したのではなく、施設の考え方をどう体现できるかを総合的に評価して設計者を選定しました。施設の外観については、屋根を分節することで、圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図ることを意図しております。 中心部震災メモリアル拠点については、本市メモリアル事業を検討する有識者委員会の議論を踏まえ、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するという方針に基づき整備するものです。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていたき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて、東日本大震災の伝承のみならず、今後も発生する災害に備える意識を涵養してまいります。	令和8年 6月5日
95	5月13日実施の市民説明会に参加した。様々な意見があったが、当局の丁寧な回答を聞き、市役所内部でしっかりと議論されていると感じた。施設そのものの必要性を訴えるよりも、「施設が出来た後の目指す仙台市の姿」をしっかりと示す方が説得力があるのではないかと。最後の質問者の方が「音楽は祈りだ」とおっしゃっていたのが印象的だったが、仙フィル・仙クラ・ジャズフェスなどの既存のリソースに新音楽ホールが加わることで、世界に誇れる「楽都せんだい」を作り上げるのだ、「仙台といえば音楽」と誰もが認識する街にしていきたいのだ、市民が音楽と慣れ親しみそれを誇りに思えるようにするのだ、といった希望に満ちたまちづくりのビジョンを前面に出していくことが、本施設に対する理解につながると思う。素晴らしいホールが出来上がることを期待している。	本整備事業については、これまでバブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。 また、これまで培ってきた「楽都仙台」としての文化芸術をさらに発展させる拠点を目指し、多くの方が文化芸術に触れるきっかけとなり、市民の皆様から愛され、国内外からも多くの人を惹きつける施設となるよう、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日
96	事業費の多寡ばかりが強調されているが、完成後の維持管理コストについては、どのような試算がなされているのか。設計内容を見る限り、一般的な施設と比較して維持・修繕費が相対的に増大する可能性があるように感じられる。仮に、デザイン性を重視した設計(いわゆる「作品性」)に起因して、将来にわたり市民の税負担が大きくなるのであれば、その妥当性については慎重な検討が必要ではないか。限られた財源である以上、小中学校の改修や子ども支援といった、より直接的に市民生活に寄与する分野への活用も含め、優先順位を総合的に検討していただくことを望む。	施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 今後、EOI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努めてまいります。 また、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税等による外部資金の獲得や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、さらなる財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日
97	音楽ホールの整備に期待を寄せている立場の考えだが、意見に対する仙台市側の回答に、客観性が抜け落ちているように思えてしまうことが、合意形成を阻んでいるひとつの要因になっているのではないかと。例えば、多くの方が疑問視している「象徴的な外観」については、仙台市側は「屋根を分節することで…(中略)…景観との調和を図られるようにしています」とコンセプトを説明しているが、意見した方は「あの象徴的なデザインを、なぜ、景観との調和が図られると判断したのか」という、プロセスを具体的に求めているのではないかと。この点を押さえきれていないため、これまでも、この先も、何度も同じ質問が繰り返されるのだと思う。プロセスを未公表とするならば、裏付けの根拠となる検証を行ってみてはどうかと提案する。『象徴的な外観が景観との調和が図られているか』どうかを根拠として示す方法として、3パターン(外観案(華美でないシンプルなものも含めて))を作ってWeb上でアンケートを取り、3分の1以上の投票が得られれば客観性のある根拠となると思う。一方、投票数が3分の1に満たなかった場合は、デザイン変更が望ましいとはなりますが、その落差がすなわち意見全体と仙台市側の方針との乖離になることから、乖離を埋める方向性と手段が明確になると思う。	基本設計者選定においては、公募型プロポーザル方式を採用しており、設計案そのものを選ぶのではなく、設計の方針や技術的な提案を募って、公開の場で設計者を選定したものです。 本施設は、「たぐさんの／ひとつの響き」を設計コンセプトとし、文化芸術と災害文化の様々な活動が共存し、あるときには1つにつながるという空間の中で、多様な活動に触れ、文化芸術や災害文化の活動が交わり、まちを豊かで強靱にする仙台ならではの文化を世界に向けて発信する、そうした施設になるものと考えております。 本整備事業については、これまでバブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。	令和8年 7月9日
98	今の状況では仙台市の考えている音楽ホールは作らない方がいい。仙台市は、市民が持っている様々な疑問に対して、具体的に答えていない。いつも答えが抽象的で、担当者もニヤニヤしながら答えて、まるで答える能力がないように思う。宮城県も音楽ホールを作る上に、仙台市で施設上の課題があるのであれば、既存の施設の活用や民間のアリーナを誘致するなど、財政的に厳しい今だからこそそのやりかたがあるはず。	本整備事業については、これまでバブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、EOI方式導入によるコスト縮減などに取り組みながら、本施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、事業を進めてまいります。	令和8年 7月9日
99	現在計画されている新たな音楽ホールおよび震災メモリアル施設について、市民として疑問を感じる。まず、東日本大震災から既に15年が経過している中で、なぜ今、新たに大規模な震災メモリアル施設を建設する必要があるのか。震災の記憶や教訓を後世に伝えることは非常に重要だが、その役割は既に沿岸部の被災地域にある震災伝承施設が担っている部分も大きいと感じている。特に、津波被害を受けた沿岸地域には、実際の被災地だからこそ伝えられる現実や重みがあるにもかかわらず、内陸部の市内中心地に新たなメモリアル施設を建設すれば、人の流れが中心部に集中し、沿岸地域の伝承施設を訪れる人が減ってしまうのではないかと懸念している。結果として、被災地そのものを訪れ、現地で学ぶ機会が減少する可能性もあると思う。また、現在は世界情勢の不安定化や資材価格高騰、エネルギー価格上昇の影響により、全国的に建築費が急激に上昇しており、今後さらに建築費が増加する可能性も高い中、なぜ今、しかも複雑な設計や高額な仕様を前提とした施設整備を進める必要があるのか。加えて、物価上昇により市民生活への負担は年々重くなっており、食費、光熱費、医療費など、生活に直結する支出が増える中、多額の税金を巨大建築事業に投入することが、本当に今優先すべき政策なのか疑問。限られた財源だからこそ、市民生活支援、防災インフラ維持、福祉、子育て支援など、より直接的に市民生活を支える分野を優先すべきではないか。	震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会報告書を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。これから整備する中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 また、沿岸部は津波被災の体感、中心部は過去の災害を含めた「災害を乗り越える文化」の発信と、それぞれ役割が異なり、沿岸部や他県の被災地との連携により相互に来館者を誘導することで現地で学びの機会の増加を目指しております。 また、本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	令和8年 7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
100	周囲に自然が多い所に大きなビルがあると、圧迫感・威圧感があるので、これを避けるためにビルの外観を木の葉のデザインにしたとのことですが、しかしそうした印象を持つ人は少数です。スケールが大きいと捉えるのが普通です。マイナスには捉えません。周囲には地下鉄駅、国際センター、美術館等の建物が沢山あります。 またデザインは失礼ながら美しいとは思いません。また建物の内側から見ると葉が長く且つ先が上方にめくれているので、ロビーから下の方が全く見えません。前方を見ると葉に切り取られた景色が異様です。 設計者の藤本壮介氏は、「ホールの配置見直しに伴い、施設の中心を大ホールからロビーに変えました。結果的に多目的に使用できるロビーがハブ(結節点)となり、全ての空間がつながる施設になった。」と述べています。(河北新報 2025.12.30) ロビーという言葉に、中心部震災メモリアル拠点を含めていると思われますが、施設の中心は延床面積の点でも音楽ホールであり、メモリアル拠点はかなり小さいです。仙台市は、芸術文化と災害文化の交流を目的としているのであり、あらゆる文化の交流と言っているものではありません。この点藤本さんに十分伝わっていないため、ロビーが中心という、それも膨大なスペースを要する設計になってしまったのではないのでしょうか。 せんだい3.11メモリアル交流館の展示のための床面積は小さいです。壁に写真を貼ることや立体地図が主です。その他交流室、ワークショップ室等です。中心部震災メモリアル拠点に、防災学の展示その他を加えてもそれほど床面積は広くならないと思います。 展示等は少ない移動距離で全部見られるようにすべきです。それぞれの展示が関連性を持っているのであり、離れた所に置くか説明が重複することにもなります。平面的にも立体的にも歩き回らなければならないのは大変です。 また仙台市は、国際センターにおける国際学会等で会議室等が不足し一部会場を分散しているので、対応策として複合施設に会議室等を併設するとしています。これはやはりまとまって配置されるべきです。吹き抜けロビー1階から4階のあちこちに配置したのでは混乱を招きます。 メモリアル拠点の展示等の具体的内容を決め、その配置と延床面積を概略図面にして、藤本氏に提示し設計の見直しをお願いすべきだと思います。同様に国際センターも利用する会議室等の室数・延床面積・配置等も概略図面にして見直しをお願いすべきです。 音楽を聴いたり演劇を観たりするのは、東日本大震災をテーマにした作品は別として、楽しむためです。音楽ホールに来た時、合わせて震災メモリアルを見ることは殆どありません。その逆も殆どありません。日を違えて訪れます。 設計図を見ると各階ロビーには透明の柵があるものの、3階や4階から下を見ると恐怖感を覚えるのではないのでしょうか。多数の椅子が階段状に並べられ下が見えるようになっています。上の階に行くにつれフロアの面積は少なくなり、吊り橋状の幅の狭い通路もあり恐怖感が増します。吹き抜け空間が広大過ぎます。大幅に減らすべきです。 地震対策として免震構造(設計図ではゴムダンパーが描かれています)を採用していますが、横揺れに対応するものであって、縦揺れには対応していません。各階のフロアから人が落下する危険があります。設計を見直すべきです。	外観デザインにつきましては、青葉山エリアの豊かな自然環境との調和を図るとともに、建物の規模による圧迫感の軽減を意図し、屋根を分節する構成としておりますが、受け止め方には様々なご意見があるものと認識しております。引き続き、景観や利用者の視点を踏まえた検討を進めてまいります。 また、ロビー空間については、多様な人々が交流し活動が生まれる「開かれた広場空間」として、施設全体をつなぐ重要な役割を担うものと考えております。一方で、音楽ホールや中心部震災メモリアル拠点の機能・規模とのバランスについてのご指摘も踏まえ、空間構成や機能配置のあり方については、引き続き検討を行ってまいります。 中心部震災メモリアル拠点の展示につきましては、既存のせんだい3.11メモリアル交流館等との連携を図りながら、震災の経験と教訓を効果的に継承・発信することが重要であると考えております。展示内容や配置については、来館者の回遊性にも配慮しながら検討を進めてまいります。 ワークショップスタジオ等の諸室配置については、ロビーを中心とした一体的な空間の中で多様な人々の交流や活動の重なりを生み出すことを目的として検討を行っており、音楽ホールと震災メモリアル拠点の両機能が連携することにより、新たな気づきや学びの機会を創出することを目指しております。 安全性の観点につきましては、吹き抜け空間のあり方や動線計画について、多くの方に安心してご利用いただけるよう検討を進めております。また、免震構造の採用により高い安全性の確保を図るとともに、引き続き必要な対策を講じてまいります。	令和8年 7月9日
101	市としては何が何でも予算がいくらにかろうとも客席2千のサラウンド型ホールを建設したいようですが、前回の意見交換会で多数反対意見が出ております。私はあの場で最後に質問したかったことがあったのですが、残念ながら時間切れのため質問することができず非常に残念に思っている点があります。 あの場では「県民会館が2千席を備えるなら、複合施設に客席2千は不要」「高額な建設費がかかる移動式サウンド型ホールは不要」「高額な建設費と維持費がかかる複雑な外観は不要」という意見が多数だったと思っております。何ならあの場で市の計画通り高額な建設費と維持費が見込まれる施設を必要としている人は拳手お願いしますと尋ねたいくらいでした。 それなのに市職員さん方はあの場の多数意見を無視し、当初案をこり押しする以外考えていないように見受けられました。あれほど計画通りに推進しようとしている責任者はいったい何方なのでしょう。もしかしたら関連会社に職員が多数天下りしていて、今更計画が変更できない状態になっているのではないのでしょうか。そんなことはないというのであれば、関連会社名とそこへの天下り人数、支給されている報酬の最大及び最少額並びに平均額を公表してもらいたいと思うのですが、おそらく公表できないのではないかと疑っております。もちろん悪い意味で。 また、ホールの来場者見込みにも若干触れられていましたが、地下鉄東西線の需要見込みと同じでありまして数字を盛りすぎです。詳しい数字は今では覚えていませんが、あの場で単純計算したところ千人集まる催しが年間300回開かれるという数字だったはず。いったいだれがどんなイベントを念頭に計算したのか、県民会館や市民会館の利用実績がどの程度なのかと併せて、この点についても是非伺いたかったところです。 音楽を愛好する市民が必要としているのは、音響が良くて使い勝手の良いホールです。建築家の自己満足を詰め込んで多額の税金を注ぎ込んだホールではありませんし、高額な建設費と維持費で次の世代に多額の負担を負わせるホールではありません。少ない予算で建てられた趣味のよいホール、真に市民のためのホールを求めます。 何でもかんでも詰め込みすぎて高額になりすぎた現行案をベースに、震災復興施設を含めて、削るところは削ってスリムにしなければ、いったい誰に喜んでもらえる施設なのかと問い詰めたいくらいです。	大ホールの規模や形状につきましては、仙台市内にこれまで大編成のオーケストラや全国を巡回する公演、吹奏楽・合唱の全国大会などに適した規模の施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められてきたことや、劇団としての本市の都市個性ということを踏まえ、文化芸術の総合拠点として多様な実演芸術の公演に対応できる転換型のホールとして計画しているところです。 来場者見込みにつきましては、既存施設の利用実績や類似施設の実績等を参考にしながら算定したものであり、魅力的な公演やコンテンツの実施などにより、国内外からより多くの来館者を呼び込めるよう、検討を進めてまいります。 これまでいただいたご意見につきましては、いずれも貴重なものとして受け止めておりますが、本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 本施設は、多様な文化芸術活動を支えるとともに、震災の経験と教訓を継承し、将来世代へとつないでいく拠点として整備を進めているものであり、いただいたご意見も踏まえながら、より多くの市民の皆様にとって利用しやすく、魅力的な施設となるよう引き続き検討を進めてまいります。	令和8年 7月9日
102	市民会館建設当時は民間に何もなかったので貢献できた。仙台市は人口減少と高齢化進展に突入し避けられない。膨大な費用を投ずる音楽ホールの必要性に疑問がある。広瀬川河川敷に市有地があったからできた計画である。民間施設やホテルなどを利用した団体に費用援助で税金を活用可能する政策もある。それこそが生きた税金で市民サービス向上である。前向きに英断をお願いします。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、検討を進めてきたものでございます。 本施設は、今後の人口減少や高齢化の進展が見込まれるなかにあっても、文化芸術と災害文化の発信拠点として、多様な主体の活動が交わることによる新たな価値の創出や、交流人口の拡大などを通じて、将来にわたり本市のまちづくり・ひとづくりに寄与するものと考えております。	令和8年 7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
103	アエルでの説明会に参加させて頂き、コンセプトやデザインは良いですが、この建設に関しては反対です。 不透明な建設費、採算性、駐車場の少なさ、市民の税負担が大きい。 計画の大幅な見直しを切望します。	建設費につきましては、基本設計を進める中で設計事業者とコスト削減の協議も重ね、またコンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえで算出した金額となっております。今後も詳細の設計のなかで精査を進めるとともに、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し事業費の縮減を図るほか、企業版ふるさと納税や協賛金・寄付金など外部資金の獲得に努め、実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保に取り組んでまいります。 駐車場の台数については、多くは地下鉄東西線での来場を想定し、敷地の状況も踏まえ駐車台数を確保しましたが、多様な来館者を想定し、さらなる利便性の向上を図るため、青葉山エリア全体での駐車台数の確保、運営面の連携につきまして、関係部局等と検討してまいります。	令和8年 7月9日
104	木造扇形屋根の積雪対策について。法令上の40センチ積雪の強度を確保していることは伺うまでもないと思うが、雪が降った後の排雪についての考えを聞きたい。 イラストでは、屋根が高低差をつけて傾斜カーブしているように見えますが、降り積もった雪が徐々に低い方へ偏り、溶けたり凍ったりを繰り返して出来た氷塊などが、屋根の低い側の端から落下する危険があるように思うが、安全対策はどのように考えているのか。 デザインからすると、屋根の上に人が登って除雪作業するようなことは無いと思うので、自然融雪を待つだけだと思うが、雪が溶けるまでの間、屋根周辺の通行を規制するなどの対応になるのか、安全重視への見解を伺いたい。 イラストでは、外周側の屋根は柱と屋根だけでできており、下側からの余熱がゼロの、いわば橋の上と同じ状態で、地表の雪が溶けても屋根の上だけは残ってしまうと思われ、対策を講じる期間と必要性が出てくるのではと思った。 最近では2023年の2月に仙台で21センチの積雪があった。雪国とは言えなくとも、まとまった雪が降る想定は必要と思う。	施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 また、屋根構造については鉄骨造を採用し、法令に基づく積雪荷重を十分に考慮した構造としております。 積雪時の対応につきましては、自然融雪を基本と想定しており、屋根上での除雪作業は予定しておりません。また、屋根形状は基本的に外側へ反り上がる勾配としており、積雪が屋根外周部に集中して落下することがない計画としております。そのため、通常の積雪時においては、屋根からの落雪を理由とした通行規制を行わなくても安全性が確保できるものと考えております。 なお、詳細につきましては、今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性を含めて検討を進める中で、施工予定者からの技術的な意見も踏まえながら、安全性に十分配慮した設計を進めてまいります。	令和8年 7月9日
105	音楽ホールはいらない。説明会での担当者の説明が、棒読みで真剣度が伝わってこない。自分は音楽ホールが出来たからって絶対いかない。青年文化センターも行ったことないのに。 仙台市は費用を抑える気が無いだろう。費用抑える気があるなら、設計の段階でどれくらいの費用を落としたのか示してほしい。 音楽ホールを作ることが目的化している。担当者の目標も、仙台市の芸術文化をいかに振興するかでなく、いかに音楽ホールを作るかだ。 自分の周りには音楽ホールに反対がほとんどだ。こういう状況の中で音楽ホールを進めようとする担当者は、いわゆるKYじゃないのか。 あらためてはっきり言う。音楽ホールはいりません。こういう意見がよせられていることを隠蔽せず、市民に公表してほしい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。また、仙台市民会館・戦災復興記念館は老朽化が進み、本複合施設開館後はホール機能の更新を行わない方針としており、その需要を受け止める役割もあります。 一方で、事業費についても設計の検討過程において、外壁ガラス面積の縮減やエスカレーター基数の見直しなど、施設機能や利便性とのバランスを図りながら、事業費の抑制に努めてきたところです。今後も引き続き、必要な機能を確保しつつ、コスト縮減に取り組んでまいります。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらし、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。 引き続き整備の必要性や、この施設がもたらす価値について市民の皆さまと対話を重ねながらご理解をいただくとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 7月9日
106	市民説明会での説明を読んだが、市民の質問に対する仙台市の回答は具体的ではなく漠然としたものであるため説得力がない。もう少し、定量的な形で合理的に説明すべきではないか。今のままだと、具体的な検討をしておらず、適当に事業を進めていると市民が思ってしまうかと思う。公務員は身分が安定しているからいいが、民間企業であればステークホルダーに対してもう少し丁寧に説明すると思う。あと、質問に回答した人を「仙台市」ではなく、具体的に誰が回答したのか役職を明示すべき。将来、音楽ホールの整備を検証する際に、事業が失敗した際の責任が明確になるようにしておくべきだ。「仙台市」としていることが、担当者が将来責任を負いたくないという心理が見え隠れし、この音楽ホールの整備がうまくいかないと言っているようなもの。	本整備事業については、これまでパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。 引き続き、本施設がもたらす意義や検討経過、期待される効果などについて丁寧に説明するとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。なお、複合施設の整備は市として取り組んでおり、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答をしております。	令和8年 7月9日
107	いつも感じるが、宮城県と仙台市、それぞれで建設する設備でも、結果、仙台市に建設される場合がおおい。一つの市に建設するのに、長期的、効率的、効果的に、設備計画をしている感じが全くない。県とコンセプトは異なるかもしれないが、ハード面で類似しているか良く考えて、要否を検討すべき。税金が投入されるのだから、補助の有無だけではなく、長期的なビジョンも持ち、他の政令指定都市とのレベル差を少しでも縮める視点も必要ではないか。 要は、この設備は不要、税金を無駄にする割合が高いと考えている。	宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれております。 また、仙台市民会館や戦災復興記念館は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としており、各館で受け止めてきたホールの需要を、県立劇場一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。こうした状況を踏まえ、これまで、宮城県との継続的な協議を行い、両施設が目指す姿や整備目的、それぞれが担う役割分担について意見交換を重ねながら整備を進めてまいりました。 また、本複合施設はホール機能だけでなく、仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様にも多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供してまいりたいと考えております。 今後とも、適切な役割分担のもと、それぞれの施設が最大限に活用されるよう、引き続き宮城県との情報共有や連携を図るとともに、音楽ホールの着実な整備と持続可能な運営に努めてまいります。	令和8年 7月9日
108	音楽ホールは仙台の芸術文化の振興に必要な。私は、金沢21世紀美術館のような美術館が必要だと思う。1000億円もかけるのなら美術館を作ってほしい。音楽ホールはいらない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところです。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えておりますことから、引き続き整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
109	今まで報道等で整備予算の倍増等を目にして施設整備に不安を抱いていたが、市民説明会での説明で施設を整備する意義や、開設により仙台市に見込まれる効果についてよく理解できた。今後の複合施設の開設を楽しみにしている。そのうえで、以下の3点について意見がある。 ①複合施設への交通手段について 2,000人規模のホールを整備されるとのことだが、とくにイベント実施時の輸送手段をどのように確保するのか疑問を抱いた。整備予定地までは仙台駅から徒歩で40分ほどかかり、高齢者や小さな子どもがいる方にとっては徒歩でのアクセスは困難。また、夏場など暑い時期は大学生であっても徒歩でのアクセスは厳しい。そこで、市営地下鉄東西線やバスなど公共交通機関でのアクセスが想定されるが、前者は10分に1本程度であり、後者もメディアターク・市民会館方面などと比較すると国際センター方面は本数が少ないといえる。そのため、東西線の増便やイベント時の臨時便を検討いただきたい。また、昨年行われた大阪万博では地下鉄が止まったことにより多くの帰宅難民が発生し問題となったが、公共交通(とくに東西線)が止まった時の対策についても説明いただきたい。 次に、現在国際センターや東北大学川内キャンパスでイベントが行われる際、道路が少ないことからよく渋滞が発生しているが、施設完成後(公共交通も含めて)混雑が予想されるとき、地元住民や東北大学の学生などとの共存をどのように図るのか、計画を教えてください。 さらに、県外から年間11.8万人の来場者が見込まれていることから、仙台市外など遠方からお越しの方は車で来場すると考えられるが、駐車場が90台で足りるのか疑問に感じた。イベントの開催などに伴い施設の駐車場が足りなくなった場合、どのように他の駐車場を確保する予定か、説明してほしい。 ②災害文化事業について まず、災害文化に触れたい人をどのように巻き込むのか疑問に感じた。宮城県内で見たととき、語り部ツアーなどの災害学習は石巻市、南三陸町、気仙沼市などといった海沿いが中心であり、仙台市内でも荒浜など海沿いの地域に集中している。そのような状況下で、どのように仙台駅の反対側にある青葉山まで関心がある層を誘導するのか、計画を説明してほしい。また、修学旅行や社会科見学の誘致といった、次世代を担う若者の集客を検討いただきたい。 次に、災害伝承を行う人材や予算の確保について、東日本大震災から15年が経過した今日被災者の高齢化が進んでおり、国レベルでも昨年度末の宮城県・岩手県における復興庁出先機関の閉鎖といった政策規模の縮小が進んでいる。また、説明の中にあつた東北大学についても、理系分野においては優秀な研究者が多数いるものの、文系分野における災害研究は少数にとどまっている。計画では、災害文化事業について「創造事業としてのアウトリーチ」や「実装事業としての助成金プログラム」が掲げられているが、これらが今回の複合施設とどのような関係にあるのかよく理解できなかった。とくにアウトリーチについて、「誰がどこに行って何をするのか」具体化し、計画に反映してほしい。 ③整備事業費について 整備事業費や維持費について、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの制度を活用して、外から持ってくる取り組みを検討されていることがよく理解できた。そのうえで、最終的には予算全体の何パーセント程度が仙台市、すなわち仙台市民の負担となる見込みか、今後具体的なデータを示してほしい。また、住民に負担を求めるうえで住民理解が必要不可欠だと考えますが、仙台市では現時点でどの程度住民理解を得られているとお考えか、認識を伺いたい。とくにこの点について、アンケート調査や統計データがあれば、公開してほしい。 地元住民と利用者が共存でき、仙台市民も気軽に利用できる施設となることを期待しております。私自身も、施設が完成しましたら是非利用させていただきたいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。	①複合施設への交通手段について 来場者の交通手段については、公共交通機関の利用を基本としつつ、イベント開催時の円滑な来場・退場に向け、公共交通機関の利用促進や運営上の工夫について、関係機関と連携しながら検討を進めてまいります。 地下鉄の輸送力については交通局と情報共有しており、周辺施設でのイベント時の増便等の対応実績もあり、対応は可能と認識しております。 敷地内の駐車場に加え、複数のプロジェクトが進展している青葉山エリア全体においても駐車場台数の確保や運用の連携について、関係部局と連携しながら検討を進めてまいります。 なお、地下鉄東西線が止まった場合の対応については、今後検討して参ります。 ②災害文化事業について 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会報告書を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。これから整備する中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 また、沿岸部は津波被災の体感、中心部は過去の災害を含めた「災害を乗り越える文化」の発信と、それぞれ役割が異なり、沿岸部や他県の被災地との連携により相互に来館者を誘導することで現地での学びの機会の増加を目指しております。 ワークショップやアウトリーチ、インクルーシブな取り組みは災害時に露呈する問題を解決するためのものでもあり、文化芸術事業と一体で進めていく予定であり、どのような運営体制で事業を展開していくかは現在検討中であることから、できるだけ早い段階でお示しできるよう鋭意取り組んでまいります。 ③整備事業費について 財源の確保に向けては、利用可能な国の補助制度や有利な地方債に関する情報収集を進めるとともに、国への独自要望にも取り組んでまいります。また、企業版ふるさと納税をはじめとする様々な外部資金の獲得にも引き続き努め、本市の財政負担の軽減に取り組んでまいります。 市民説明会やシンポジウムなどを通じて事業への理解促進に努めており、また、音楽関係団体や商工会議所からも整備推進に向けた要望を頂戴しているところ。引き続き、先行事業の実施や若い世代を巻き込んだ市民共創による事業運営の検討を進めるとともに、様々な機会を捉えて情報発信に努めてまいります。	令和8年7月31日
110	音楽ホールの整備や文化芸術の振興の重要性は理解しているが、約600億円という大規模な投資であるにもかかわらず、なぜ音楽ホールが最適な選択なのかが十分に伝わってこない。 仙台といえば芸術、スポーツ、自然、食など様々な魅力があるが、正直なところ、全国的に「音楽のまち」というイメージはそれほど強くないように感じる。そのため、多くの市民が納得できるよう、なぜ音楽ホールが仙台の将来に必要なのか、他の選択肢と比較した上で説明してほしい。 また、建設費だけでなく、維持管理費を含めた長期的な収支見通しや、県外・海外からの集客戦略についても、より具体的な説明を求める。	本市では、「楽都仙台」を掲げ、仙台国際音楽コンクールをはじめ、「仙台クラシックフェスティバル」などの音楽イベントなど、長年にわたり音楽活動が盛んに行われてきております。 本施設は、そうした音楽をはじめとした文化芸術活動をさらに高めるとともに、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすものと考えております。また、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えておりますことから、引き続き整備を進めてまいります。 運営費・維持管理費につきましては、他都市の類似施設の水準も参考として年間約18億円を見込んでおります。様々な方に文化芸術に触れる機会を提供するなど公共の事業にかかる部分があり、公費負担はあるところですが、施設使用料収入約2億円、チケット収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めるとともに魅力的なコンテンツの展開などにより多くの方に来場いただけるよう検討を進めてまいります。	令和8年7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
111	・屋外広場と桜の小径テラスについて 形・大きさの違った長方形の面が多数重なり合っています。重なり合った所に段差があり、段差が大きい所には階段が付けられている。踏みやすく転倒事故が発生し易いです。また杖をついている歩行困難な人や車椅子を使用している人は通れない。その人用の通路があればよいというのでは配慮が欠けている。すべての人が通れるように、平らにすべき。 ・交流について 文化芸術と災害文化の交流、加えて他の文化との交流も企図しているが、仙台市には、市役所・文化センター6カ所・市民センター62ヶ所・コミュニティーセンター73ヶ所、計142ヶ所あり交流機能を持っている施設がある。 市役所は建築中だが、中心的役割を担うべきだと考える。したがって、複合施設においては、総合的交流を目指すのではなく、2つの交流を主とすべき。1階から4階までの広大なフロア面積と巨大な吹き抜け空間は不要。もっと低層の普通の造り方がよいと思う。設計を変更すべき。大幅に建築費を削減できる。 ・地震対策について 政府の地震調査委員会は、毎年調査結果を公表している。本年1月15日に公表されたが、宮城県沖地震については、今後30年以内に発生する確率を、前年調査より引き上げ70%～90%とした。 設計では、幅の狭い橋のような通路が2階～4階に計9カ所あり、建物の外側に階段が6カ所ある。下を見ると恐怖を感じる人が多いと思う。フロアの間際に腰掛可能な階段が設けられ、下がよく見えるようになっている。高所から下を見ると怖いという普通の感覚を全く考慮していないと思わざるを得ない。 地震発生時、幅の狭い通路・外の階段から人が落下する危険があります。免震構造を採用していますが、横揺れには有効性がありますが縦揺れには無効です。通路の左右から吹き抜けを落下して行く、階段を転がり落ちるだけではなく左右から落下する恐れがあります。地震を軽視しているように見えます。 免震構造を採用することだが、横揺れには有効ですが、縦揺れについては無効。吹き抜けのロビーには、2階に5箇所、3階に2箇所、4階に2箇所、計9箇所幅の狭い橋のような通路があり、下を見ると恐怖感を覚える人もいるだろう。強い地震があると上方に突き上げられ、体勢によってはバランスが崩れて落下する危険がある。30年周期の宮城県沖地震が起きる確率は最大になっている。幅の狭い橋のような通路は、設計変更が必要だ。	屋外広場は、日常において誰もが気軽に集い、憩える心地よい空間とするともに、様々な催事やパフォーマンス、防災体験イベント等が行われる空間として計画しております。また、国際センター駅や桜の小径との連続性にも配慮し、周辺一帯の魅力向上につながる空間として計画しております。 詳細な設計については、今後検討を進めていくこととしておりますが、いただいた段差やバリアフリーに関するご意見につきましては、今後の設計の参考とさせていただきます。 本施設は、「たくさんの／ひとつの響き」を設計コンセプトとし、文化芸術と災害文化の様々な活動が共存し、あるときには1つにつながるという空間の中で、新たな文化を創造する土壌が生まれることを目指しております。ロビー空間については、多様な人々が交流し、新たな活動や価値が生まれる「開かれた広場空間」として、施設全体をつなぐ重要な役割を担うものと考えております。 本施設では、免震構造の採用に加え、建築基準法等に基づき地震時の安全性を確保した設計を行っております。橋状の通路や屋外階段については、他の床部分と同様に手摺を設けるほか、不意の転落を防止できる高さを確保するなど、安全性に十分配慮した計画としておりますが、引き続き、実施設計においても、利用者が安心して利用できる空間となるよう配慮しながら設計を進めてまいります。	令和8年7月31日
112	仙台市が進めている新しい複合施設の整備計画に反対。 音楽ホール(システムズホール)も震災関連施設(震災復興記念館)もすでに市内に存在しているのに、なぜまた大金をかけて似たようなものを作るのか。維持費も含めて、市民の負担になるだけで経済効果は期待できないと感じる。実際のこの二つの施設が存在して、大きな経済効果を生んでいるか？と考えるとクエッションマークが浮かぶ。 正直、今駅前のお店がなくなっていたり、市内中心部全体が寂れてきていることの方がショック。魅力的なお店や街並みがなくなって、こういうハコモノばかり作っているから若者が街から離れていくんだと思う。というか現状離れていってますよね。 似た施設を作る暇があるなら、駅前や中心部全体の商業を盛り上げるような開発をすべきではないか？実際福岡市などは仙台市と同じ地方都市ながら、企業誘致や駅や中心部の再開発を活発に行い、街も活気に溢れ人口も増加している。現状を受け止め街並みの整備や、地元のお店を増やすことに予算を使って欲しい。	まちの活性化については、2019年より取り組んできた「せんだい都心再構築プロジェクト」の枠組みを発展的に深化させ、開発促進と経済施策、観光施策を一体的に推進する「せんだい都心再構築2036」を本年5月に立ち上げたところで、「せんだい都心再構築2036」の各施策の実施により、仙台駅前を含む都心全体の魅力や投資環境を向上させることで、ビジネスや交流の中心舞台である都心を新たなステージへと押し上げてまいります。 また、本施設は、長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、パブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら、検討を進めてきたものです。 本施設の整備により、多様な文化芸術活動の創出や市民の豊かな暮らしに資するだけでなく、国内外から多くの人々を惹きつけることで交流人口の拡大を促し、都心部のにぎわいや消費の創出など、地域経済への波及効果も期待されます。このように、本施設は仙台のまちづくり・ひとづくりを支えるとともに、魅力ある都心のまちづくりにも寄与する施設であると考えておりますことから、引き続き整備を進めてまいります。	令和8年7月31日
113	1. 外観が思わしくない 外観は、建物の用途がかもし出す目で確認できるもの。分かりやすく言えば、人の外観を見て誰かを知り、その人の様相までも会得できるもの。 音楽ホールと震災メモリアルの用途がかもし出されていない。そもそも、この二つの用途はそれぞれ、れっきとした個々のものです。音楽ホールの外観をイメージをして見るに、音楽そのものが持つ荘厳さを音色、リズム、ハーモニー達が懸命に人々の内面に投げかけてくれる安らかで奥の深い空間。音楽ホールの外観は、上記したように荘厳な趣を私達にかもし出してくれる美しい建築である。 2. 間取りが思わしくない 現在進捗している仙台新庁舎の計画のとき次のことを述べた。「市民室は、ホールや廊下の一隅に設けるのでは無く部屋として間どこと。そして、その市民室から外に出られるようにテラスを設け庭をこしらえること。」 この度の音楽ホール震災メモリアルの間取りを見ると、上階の部屋部屋にテラスを設け外部との繋がりを図っている。この用途の建築の場合、とくに音楽室などは演奏練習者たちなどが内面に向かえる落ち着いた空間が求められる。又、1階から上階迄吹き抜け空間になっていることも相まってなかなか落ち着けない。この用途の間取りとしては甚だ思わしくない。私は、人のかけがえないものとして、西公園の北側の現仙台市音楽ホール、宮城野区のバトナホール、宮城県民センターなどへ音楽を鑑賞に1970年から足をはこんでいる。 音楽はすばらしいものです。心より謹んで宜しく願い申し上げます。	1.外観について 施設の外観については、「たくさんの/ひとつの響き」という設計コンセプトのもと、施設の高低や大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、深い庇(ひさし)を設けることで日差しを遮蔽効果を高め、屋内と屋外が連続する開放的な環境を創出することを意図しております。 2.間取りについて 施設の諸室や共有スペースの配置については、設計者を始め、市内の音楽関係者や舞台関係者等、実際にこの施設を使うことになる方々との意見交換も重ねたうえで、現在お示ししている基本設計の形になったものです。今年度から着手する実施設計において、市民や利用者にとってより使いやすい施設となるよう、引き続き検討を進めてまいります。	令和8年7月31日
114	音楽ホール作るのはいいが税金かけすぎ！ 最近建設された公立音楽ホール、群馬県「高崎芸術劇場」仙台市と同じ約2,000席で335億円！ 仙台市の646億円は尋常ではない！狂ってる！ 維持費だって巨額の負担が毎年必要！！ 建設費高騰を原因にしているが最初から想定できたはず。	近年の建築コストの上昇については、本市としても重要な課題であると認識しております。一方、本施設につきましては、老朽化が進む市民会館のホール機能の継承や、文化芸術の振興、震災の記憶と教訓の継承・発信を担う施設として必要であると考えております。今後も事業費の精査や財源の確保に努めながら、将来にわたる財政運営の健全性に十分配慮して取り組んでまいります。	令和8年7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
115	「複合施設整備」そのものに反対。最新情報では事業費646億円とのことだが、実際の事業費は市況から見ても価格高騰により更なる上昇可能性大だし、建設後の維持費を見込めば、この何倍もの費用が掛かることは明白。この費用負担は、市民の税金。それだけの資金を投じてまで得られる効果があまりにも乏しいし、圧倒的に優先度が低い。誰が喜ぶのでしょうか。市民は求めていないと思う。市の最優先課題は、「既存重要インフラの維持」や、「人口減少を食い止める」ことではないか。それができて初めて、「贅沢施設」をやるかどうか、という次元ではないでしょうか。この計画を推進すること自体、あまりにも危機感が低く、市民・県民の現実的な日常課題に寄り添っていない、「ムダ」な構想に感じしてしまう。税金の無駄遣いだ。即刻計画取りやめを求める。また「震災メモリアル拠点」を仙台市中心部に建設することで県全体への弊害もあると思います。例えば甚大な被害のあった沿岸部のメモリアル拠点への人流が減少するのではないのでしょうか。市政が県全体の利益を損ねるような行いを推進するのはいかがなものでしょうか。市民の「日常を守る」欠かせない施策にこそ、この646億円超を投じていただきたい。私自身リターンで仙台市へ転居した者だが、この施策を知り正直がっかりしてしまった。こうしたことで失望感が積み重なり、子育て政策等充実した首都圏へ若者・労働者世代が流出するのではないか。市政への信頼度こそ、市民が1年後、5年後、10年後、ここに定住したいと思うかどうか意思決定に直結する。計画を進めている最中であっても、まだ手遅れではない段階ですので「勇気ある撤退」を本格検討いただきたい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、パブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら、検討を進めてきたものです。 震災メモリアル施設に関して、本市の沿岸部施設は津波被災の体感、中心部震災メモリアル拠点は過去の災害を含めた「災害を乗り越える文化」の発信と、それぞれ役割が異なり、沿岸部や他県の被災地との連携により相互に来館者を誘導することで現地の学びの機会の増加を目指しております。 また本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えておりますことから、引き続き整備を進めてまいります。	令和8年7月31日
116	移住策を利用して東京から仙台市に転居した。本取り組みについて、本日ニュースで知ったがこのようなお金の使い方に驚きを隠せない。子供を産み育てるという一番の根幹が揺らいでいる状況下で、赤ちゃんやお母さん向けに税金をたくさん使ってあげるべきではないか。働くお母さんの産休、育休下における支援やその後の教育費へのサポートが最も重要だと思う。既存の人口を右から左へ動かす(呼び込む)ための施設に対する投資は不要、このご時世でもし施設関連への投資が必要であるとするれば老朽化するインフラ設備への投資だと思う。音楽ホールに投資しても赤ちゃんは生まれてこない。仙台市としての姿勢に疑問を感じ得ず、市の方針に今後改善が見られなければ東京に戻ろうと考えている。東北を代表する仙台市が国全体の問題に目を向けられず、一部の団体との利権に目が向いているようであれば私がこれ以上仙台市で暮らす意義はない。	子育て支援や教育、福祉、インフラの維持更新など、市民生活の基盤を支える施策を推進することが行政の担う重要な役割であるとの認識のもと、これまで出産・子育てを支援するための各種給付や保育料の第2子以降無償化、学校給食費無償化をはじめ、様々な取り組みを進めているところであり、今後も力を入れて取り組んでいく必要があると考えております。 本施設は、文化芸術や災害文化にかかる様々な事業を展開することで、交流人口・関係人口の拡大による経済的価値に加え、教育や福祉、都市ブランドの向上など、多様な社会的価値を創出し、将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらす施設になるものと考えております。特に、こどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会の創出も重視しております。引き続き、事業費の精査や財源の確保に努めるとともに、将来にわたる財政運営の健全性にも十分配慮しながら事業を進めてまいります。	令和8年7月31日
117	本事業に関しては、東日本大震災との直接の被害と関係性の薄い非沿岸地域に、音楽施設とメモリアル施設を併設することの意義もプロモーション効果も不明であるだけでなく、県で行っている事業との調整・整合性もとれず、更には設計費用のみで13億にも上る過度に華美な施設企画、当初に比べて大幅増の600億円超の予算計上など、とても仙台市民としてまた震災の語り継ぎをライフワークとして活動している人間として同意容認できるものではない。南三陸町は台湾赤十字からの支援金20億で南三陸病院を新設出来た。助けられた側として、600億のお金は、箱モノではなくより医療・保健・福祉・防災など実生活に根差した目的で使用されなくてはならないと思う。 私は宮城県も仙台市も大好きである。意見公聴会を反映しない強引な結論ありきの議論を議会等で進められることは大変悲しいことだ。見直し撤退すべき時と思う。	本事業については、長年にわたり整備が望まれてきた音楽ホールと、東日本大震災の記憶と教訓を次世代に継承・発信する中心部震災メモリアル拠点を一体的に整備するものであり、これまでパブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら、基本構想及び基本計画を策定してまいりました。 震災メモリアル拠点については、国内外から多くの人を訪れる仙台市中心部において、沿岸地域の震災遺構や伝承施設等と連携しながら、震災の記憶と経験、教訓を広く発信する役割を担うことを目指しております。 本施設は、交流人口・関係人口の拡大による経済的価値に加え、教育や福祉、都市ブランドの向上など、多様な社会的価値を創出し、将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 また、医療、保健、福祉、防災など、市民生活の基盤を支える施策を推進することが行政の担う重要な役割であるとの認識のもと、学校給食費無償化や保育料の第2子以降無償化などの子育て支援に加え、子ども医療費助成の拡充、高齢者の健康寿命延伸につなげるためのアクティブシニア・ボランティアポイント制度の実施、避難所環境の改善や津波避難対策の推進など、必要な取り組みを進めているところです。 本市といたしましては、こうした施策とのバランスにも十分配慮しながら、事業費の精査や財源確保に努め、将来にわたる財政運営の健全性を確保しつつ事業を進めてまいります。	令和8年7月31日
118	※6月6日に開催したシンポジウムを踏まえてのご意見 私は2021年まで青葉山の公共施設に勤めさせていただいた後、地元で地方公務員に就いている。今後の事業計画で既に取組む予定とは思いますが、都市長のプレゼンテーション(資料13ページ)にもあったように、青葉山エリア全体で観光施策(仙台市観光戦略2027)と連動した事業展開が進めば来場者数、経済波及効果も数段上がり、仙台国際センター、緑彩館、音楽ホール全て連動しての『音楽MICE(仮称)』や『仙台防災未来フォーラム』の強化、ナイトコンテンツも全施設連動した『青葉山音楽フェス(仮称)』など、様々なコンテンツが無限大に創出可能となり、周遊促進や観光消費促進に結びつけることができれば、目標としている700万人泊も実現できるものと考ええる。 複合施設完成の暁には仙台・東北を音楽で広域に連携・連動し東北一体となった魅力の発信に一緒にできればと思う。整備事業費の高騰や施設の在り方などに対する仙台市民の皆様方のお気持ちも慮られますが、是非、強い仙台・東北のためにも事業を成し遂げていただきたい。応援している。	本施設は、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を核として、仙台国際センターや緑彩館など周辺施設との連携を図りながら、文化芸術の振興、交流人口の拡大、震災の記憶と経験の継承・発信を推進する拠点となることを目指しております。 また、本施設の整備を契機として、青葉山エリア全体の魅力や回遊性の向上に取り組むことで、多様な交流や新たなにぎわいの創出につなげてまいりたいと考えております。 いただいたご提案につきましては、今後の施設運営やエリアマネジメントの検討にあたっての参考とさせていただきます。また、本施設が市民の皆様に愛され、国内外から多くの人を惹きつける施設となるよう、整備を進めてまいります。	令和8年7月31日
119	音楽の力による復興センターに「音楽ホール建設機運醸成事業」の名目でお金を払っているがこれはなんの金か。機運が醸成しているならこんな金いらんないはず。機運醸成してないということであればそのような状況で音楽ホールを作ることを決めたのか。わかりやすい説明を求める。	本市では、開館後の事業展開を見据え、先行的に実施する事業に取り組んでおります。「音楽ホール建設機運醸成事業」は、こうしたプレ事業の企画・実施や、市民の皆様に本施設が目指す役割や価値を知っていただくための普及啓発等を行うものであり、そのための経費を支出しているものです。 なお、音楽の力による復興センター・東北は、東日本大震災後の被災地支援や復興コンサートなどの実績に加え、文化芸術分野における専門的知見やネットワークを有していることから、本市が実施するプレ事業の趣旨に沿った取組を実施できる団体であると考えています。	令和8年7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
120	仙台市では箱物等の建設が多い、仙台市役所、泉区役所、宮城総合支所等他に高額な市長車。 費用対効果をもっと考えて欲しい、道路整備や水道管の更新等ライフライン整備に税金は使うべきである。	道路や上下水道などのライフラインをはじめとする市民生活を支える都市基盤については、安全・安心な暮らしを維持するため、計画的な更新や維持管理に取り組んでおり、市役所本庁舎等につきましても、施設の老朽化等に伴い整備を進めているものです。 本施設につきましても、交流人口・関係人口の拡大による経済的価値に加え、教育や福祉など、多様な社会的価値を創出することを目指しております。 本市といたしましては、市民生活を支える基盤整備と将来を見据えた都市の発展に向けた投資の双方が重要であると考えており、事業費の精査や財源の確保に努めながら、将来にわたる財政運営の健全性に配慮して取り組んでまいります。	令和8年 7月31日
121	次世代の維持費や修繕費の負担になる施設は不要。	本施設につきましても、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 施設の整備や運営にあたっては、事業費や維持管理費の精査に努めてまいります。	令和8年 7月31日
122	デザインが奇抜で、雨漏り等の不安がありリスク資産ではない。	施設の外観については、屋根を分節することで施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、深い庇(ひさし)を設けることで日差しの遮蔽効果を高め、屋内と屋外が連続する開放的な環境を創出することを意図しております。 また、本施設は多くの方に長く安全・安心に利用していただく施設であることから、設計・整備にあたっては、建築基準法をはじめとする関係法令や技術基準に基づき、耐久性や維持管理性、安全性にも十分配慮して検討を進めております。	令和8年 7月31日
123	現在、建築コストが上昇しているなかで、今建てる必要は無い。	近年の建築コストの上昇については、本市としても重要な課題であると認識しております。今後もECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努めてまいります。また、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税等による外部資金の獲得や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、さらなる財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 7月31日
124	市民にとってより良い音楽文化を享受する場としてのホール建設を強く望んでいる立場である。 1. 試算について 6月6日のシンポジウムでは、市街地に建設を計画すると土地買収に費用が嵩み、現在計画中の場所より莫大な費用がかかるということであった。この件について、実際に試算をしたのであろうか。例えば仙台駅前のさくら野百貨店跡地を買収し、建設した場合などときちんと比較し、市民に具体的な額を提示すべきではないのだろうか。運用後の試算だが、これもシンポジウムの際に質問が出ていた。すでに建設を決定した段階なのに、なぜ運用後の試算を策定できていないのか。市長も行政担当者も様々な条件により試算できないと逃げていたが、ただの怠慢である。シュミレーションは可能である。きちんと仕事をしてほしい。 2. 災害文化とは? この件も6月6日のシンポジウムで全くもって曖昧である。災害文化というものがなんであるのか全く定義されていない。これは、複合施設を建設するためのただのこじつけに過ぎない。そもそも、文化とは民衆によって醸成されてゆくものであり、行政が策定するものではない。 3. 設計と場所について 私たちはより良い音楽を聴くための会場を望んでいるのであって、外観の良さ、独創性ではない。あのような設計によって建設コストが割高になっているのではないだろうか。同じ設計者のマルホンまさあーとテラスも来場者の動線は全く考えていないという話を聞いたことがある。場所については、不便すぎる。なおかつ、来場者の利便性を全く考えていない。2000人規模のホールにも関わらず、駐車台数は90台しかないという話。コンサートの開演前、終演後に観客は集中するが、東西線の1列車あたりの収容定員を考えると、時間に余裕を持って会場に向かったとしても開演に間に合わない、終演後は電車に乗り切るまで長時間待つということがわからないのであろうか。このように、市が策定した計画を強引に実行に移せば、将来的にただの箱となってしまうのは明らかである。竣工当初は珍しさに人は来るかもしれない。しかし、不便極まりない場所、特に県外者にとってあまりに不便な場所である。これでは海外のオーケストラ公演などを開催しても観客動員は難しい。仮に吹奏楽コンクールなどで使用するとしたら、会場に駐車するバスの台数、参加者の移動を考えただけでもこのホールを使うことは難しい。負の遺産を残すのでなく、一旦計画を白紙に戻し、最初から計画の練り直しをすべきである。あくまでも市民のより良い音楽享受が第一優先であり、行政の満足ではない。箱物を作れば良いという時代は終わっている。 さらに付け加えるのなら、本計画はあまりに杜撰である。6月6日のシンポジウムでの説明がそれを物語っていて、あまりに残念である。繰り返すが、ホール建設にあたっては、多くの市民にとってより良い音楽文化を享受する場をつくることを考えてほしい。	1.平成30年度に取りまとめた仙台市音楽ホール検討懇話会の報告書におきまして、音楽ホールの建築面積は少なくとも9,000㎡は必要としております。仮にこの面積が仙台駅周辺の公示価格に基づく440億円程度と積算できるものの、さらに立地条件や収益性なども踏まえて土地の取引価格が決定されることから、さらに高額となる可能性があります。また、市有地ではなく民有地の取得が必要となるほか、複数の地権者との調整や用地取得に相当の期間を要することが想定されるため、実現可能性は低いものと考えているほか、現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。 なお、施設供用後の運営・管理費につきましては、他都市の類似施設の運営状況等を参考に試算した想定額を既に公表しているところですが、今後、運営手法の検討を進める中で、より詳細な精査を行ってまいります。 2.災害文化とは「災害は発生するものである」という認識に基づく考え方や行動のあり方、伝承の取組み、防災・減災の具体策など、災害を乗り越えるための知恵や術を持った社会文化」と定義し、災害を乗り越える知恵や術(災害文化)を日常生活や社会の仕組みに定着させ(災害文化の実装)、時代の変化や気候変動に応じてアップデートし続ける営みを牽引し、呼びかけ続ける拠点を目指しています。今後も、行政のみならず市民や関係団体、専門家など多様な主体との連携のもと、事業や運営のあり方等を検討してまいります。 3.屋根については、周辺への圧迫感を低減し青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽、屋内と屋外が連続する開放的な環境の確保といった点も考慮しております。特定の部分に絞って費用を比較することは難しいですが、今後実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法(ECI方式)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。 来場者の交通手段については、公共交通機関の利用を基本としつつ、イベント開催時の円滑な来場・退場に向け、公共交通機関の利用促進や運営上の工夫について検討を進めるとともに敷地内の駐車場に加え、複数のプロジェクトが進展している青葉山エリア全体においても駐車台数の確保や運用について、関係部局と連携しながら進めてまいります。	令和8年 7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
125	他の自治体の公共施設の事業費高騰の記事を見ると、この音楽ホールも早晚1000億円は超えると思う。将来的にこの事業を中止することになった場合、今中止するよりも多額の費用が発生することが想定される。その増えた額を市民が負担するのはおかしい。負担の増加は十分予見されたことであり、事業継続を決めた市長以下、担当職員全員で負担すべきだ。仮にそうになったら住民訴訟で、市役所職員の責任を追及したい。 No83の回答について 組織として回答しているのであれば、組織を代表する市長の回答であることを明示すべき。ここでいう組織の範囲が担当部署にとどまるのであれば、担当部署の代表者の回答であることを明示すべきである。あえて回答者を明示しないところに、責任の所在をあいまいにしようとする市当局の意図が見え隠れする。 No85の回答について 指定管理者は公募によらない選定とする方向で検討する理由は「早い段階から高い専門性を持つ人材の確保や育成が必要、本市の文化芸術・災害文化の総合的な拠点として、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりのある施設運営や政策と連動した事業展開が求められる。」とあるが、早い段階で指定管理者を公募すれば、この課題は解決でき、非公募の理由にならない。市役所が自分達の天下り確保のため、意図的に指定管理者を非公募にしようとする意図が見え隠れする。	本事業では今年度より実施設計に着手するとともに、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入する予定としており、設計段階から施工予定業者と連携し、資材調達の見通しや施工上の工夫を踏まえたコスト縮減等の検討を行います。 引き続き、需給状況や価格動向について注視していくとともに、こうした方式の利点を活かしながら、資材確保も含めた円滑な事業推進およびコスト縮減に努めてまいります。 なお、掲載している回答は、いずれも仙台市としての考え方を示しているものです。 指定管理者制度につきましては、施設の特性や求められる機能等を踏まえながら検討を進めているところであり、本施設の理念に沿った適切な運営が確保されるよう、運営体制の具体化について検討を深めてまいります。	令和8年7月31日
126	音楽で空腹は満たされない。 市民税を下げてほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしをもち、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年7月31日
127	音楽ホール単体で採算を取るのはいさぎよく、経済効果まで含めて採算性を考えるしかない。 採算を左右するポイントは、「県外客をどれだけ呼べるか」だが、その調査結果やシミュレーション結果があれば公表してほしい。 仮に600億円以上の事業なのに、具体的なシミュレーションをせずに事業を進めているのであれば、非常に危うい事業なので、即刻中止すべき。 あとこれから音楽ホールを作るのであれば、AIなどの最新技術を十分に活用した施設にすべきだ。どこにでもある古い音楽ホールであれば仙台に作る必要はない。	本施設の経済波及効果については、試算にあたっては他都市の事例も参考としつつ、本市におけるこれまでの観光施策や交流人口の拡大の取組、宿泊者数の実績などを踏まえ、来場者数や県外来場者数、宿泊者数などを見込んだ試算を行っており、その内容は基本設計等に関する市民説明会説明資料(https://www.city.sendai.jp/aobayamaeria/hukugoushisetsu/seibi/sekkei_sekou/documents/setsumeisiryoku.pdf)43・44ページにも掲載しております。今後は、観光施策との一体的な展開を図りながら効果を高めるとともに、経済効果の最大化に取り組んでまいります。 また、本施設は実施設計や運営計画の検討を進めている段階であり、新たな技術の活用も含め、幅広い世代にとって利用しやすい魅力ある施設となるよう、検討を進めてまいります。	令和8年7月31日
128	6/6市民シンポジウム含めて都合3回説明会出て、市長がなぜ巨額の建設費を掛けて作る理由と毎年運営赤字10億円を税金補てんしてまで成し遂げたいのか全く理解出来ない。 毎回、質疑応答中に時間切れで終わる説明会繰り返して、どこが我々出資者へ丁寧に説明していると言えるのか。県内の経済波及効果金額を根拠無く40億円も上積みさせたのは市長だと自分から発言して何も感じないのか。 市民が払っている税金を貴方がたに出資している株主に置き換えて物事を考えてほしい。こんな穴が空き捲りの事業計画出したら一発却下だし、財源も決まっていなリスク満杯の状態です。来月、施工者選定のプロポーザル発注ができるのか。 株主(市民)への説明会が終わって全て同意を得られた認識で居るなら間違いだ。仙フィルも大物アーティストも使わない音楽ホールなんか誰も望んでいないのだから。 株主(市民)意向を確認する為の住民投票行う必要が有ると思うし、市長と文化観光局職員との間に溝が有る状態で計画進めても失敗するとしが感じない。仙台市体育館で大規模な市民説明会開催して丸一日討議しましょう！その位、真面目に考える問題ですよ。	本整備事業については、これまでバブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。 経済波及効果の試算については、当初、既存施設の利用状況や市内イベントの実績を基に、見込まれる利用状況から推計しておりましたが、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発のほか、青葉山エリアでの立地を生かし、周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、改めて経済波及効果を算出したものです。 また、本事業では実施設計段階から施工予定者が参画するECI方式を導入し、施工ノウハウを活用しながらコスト縮減や施工性向上の検討を進めることとしております。建設費の抑制や維持管理の効率化にも配慮しながら、事業費の適正化に努めてまいります。 引き続き、本施設がもたらす意義や検討経過、期待される効果などについて丁寧に説明をするとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
129	宮城県で2000席の新しい音楽ホールを作るのに、仙台市も同じような施設を新たに作る必要はあるのか。仙台フィルハーモニーが新しい県の音楽ホールで演奏することはないのか。県が新しい音楽ホールを整備することで、仙台市が考える文化芸術の振興が十分図られ、市の目的も達成できると思う。出来ないのであれば、その理由を説明してほしい。 また、600億円以上のお金を使うのであれば、別の施設を作った方が、より大きい経済効果が生まれると思う。例えば、サッカー場やドーム球場、スーパーアリーナなど、他の施設を整備した場合の整備費用や生み出される経済効果はどれくらいか。それらとの費用対効果の比較は行っているのか。行っているなら、金額を示していただきたい。仮に行っていないなら、行っていない理由を説明してほしい。 これから経済的成長が見込まれない中、自分達の孫の世代に大きな負担を強いることとなる。後世の人たちのきちんと説明できるように丁寧に仕事をすることを求めたい。	県が整備する宮城県立劇場は、現県民会館の老朽化に伴う移転建て替えであり、従来の県民会館の利用の多くが移行すると見込まれています。一方で、本市においてはホール需要が高く、また老朽化が進む市民会館や震災復興記念館のホール機能の更新を行わない予定であることから、これらの需要を受け止める役割もあるところです。県と市がそれぞれ実施した需要想定調査においても、双方が2,000席規模のホールを整備した場合であっても、十分な需要が見込まれるとの結果が得られており、こうした需要面の視点に加え、本施設は、本市の文化芸術の力を総合的に高めるとともに、災害文化との融合という特徴を生かしながら、仙台のまちの魅力向上を図ることを目的として整備するものです。 また、公共の文化施設は、利用料収入や経済効果のみを目的として整備・運営するものではなく、市民が文化芸術に触れる機会の提供や地域文化の継承・発展などの公益的な役割を担っています。本施設についても、誰もが気軽に文化芸術に親しめる環境を確保するとともに、本市の文化芸術の振興を支える拠点としての役割を果たしてまいります。 今後県との情報共有や連携を図りながら、相互の特性を生かした施設運営を進めてまいります。	令和8年7月31日
130	仙台市のプレゼン資料にある「新たな文化創造拠点による都市のリ・デザイン」は、県が新しい音楽ホールを整備することで十分達成することができる。県と市が同じような施設を作る必要はないのではないか。県と市の2重行政である。経済効果が78億円と示されているが整備費の割にコスパが悪い。広島市のサッカースタジアムは事業費286億円に対し、経済効果は140億円である。開業は2024年2月なので、現在は整備費は上がっているかもしれないが、仙台市の音楽ホールほどの整備費にはならないと思われ、仙台市の音楽ホールは費用対効果が非常に低い。経済効果を期待するなら、別の施設を作るべきだ。		
131	・女性用トイレについて 河北新報6月13日の記事に、「国土交通省は12日、駅や商業施設などで女性用トイレの行列改善に向けた指針を決定した。『待ち時間を平等に』との考え方を掲げ、利用者が男女でほぼ同数の施設では、原則として女性用の便器数を男性用(大小合計)以上とする必要があるとした。法的拘束力はないが、事業者や行政に取り組みを促す。」「女性の方が衣類の着脱に時間がかかる点など『性差を踏まえた待ち時間の平等』を実現するため、十分なトイレ面積や便器数の確保が望ましいとした。」とありました。 図面を見ますと、1階の音楽ホールの男性用トイレは44、女性用は9です。図面を拡大するとばやけるので1つ2つ数え違いがあるかも知れませんが、女性用がかなり少ないです。 クラシック、演劇、ミュージカルの場合は男女ほぼ同数とみてよいと思います。ポピュラー系はアーティストにより男性あるいは女性に偏ることがあるでしょう。県民会館でクラシックの演奏会を聴いた時、1590席がほぼ満席だったのですが、2階の女性用トイレは休憩時間に長い行列ができていた。後半が始まるまで用を足せるのか心配になった。 2000席が満席の時、終了時より休憩時間の方が混むのではないかと思います。県民会館で男女共どの位の人数がトイレを使用するのか、行列がなくなるまでどの位時間がかかるのかを調べれば、より適切なトイレの数を把握できるのではないかと。 1階の女性用トイレは、ホワイエのほぼ中央にあります。数が少ない分かなり長く幾重にも行列ができて相当ホワイエを占めてしまうだろう。国交省の指針はもっともなことであり、設計の変更が必要です。行列が見えないよう樹脂パネルを張った可撤式の衝立も、並んでいるのを見られたくないでしょうから。 ・吹き抜けロビーについて できるだけ部屋を壁で区切らないようにするとのことだが、話し合いをしている時に周辺から人の声や物音が聞こえるのでは、話の妨げ、騒音になる。他の人にとっても話し合いの声が騒音となることもある。人の姿が見える、声が聞こえるのが良いと言っても自ずと限度があると考える。	基本設計完了時点での大ホール1階の便器数は女性用44、男性用9とし、女性用トイレはホワイエ奥に設置しております。また各フロアにおいても女性用トイレを可能な限り多く設置できるよう配慮し計画しております。 女性用トイレの便器数や配置、待機列への配慮のほか、共用空間における音環境や利用者同士の適切な距離感の確保についても、施設の機能や運営面を含めて詳細な検討を深めてまいります。	令和8年7月31日
132	①市民団体から音楽ホール建設の要望が出されているが、要望団体の1つ「音楽の力による復興センター」に仙台市から「音楽ホール建設機運醸成事業」という名目で多額のお金が支払われている。これまで、いくらのお金を何の目的で支払ったのか実績を開示してほしい。また、その団体に市のOBは在籍しているのか。音楽ホールの整備にあたり、仙台市に有利な要望書を出すような団体に、音楽ホールの機運醸成目的でお金を支払うことは、コンプライアンス上問題ないのか。 ②市が説明する経済効果は、他都市の公共施設と比較すると、事業費の割に低すぎる。経済効果は、他都市の文化施設との比較を行っているか。他都市の文化施設と比較して、入場者数、経済効果等はどうか教えてほしい。仙台市中心部に整備した場合の入場者数見込みと経済効果の比較も示してほしい。もし行っていないなら1000億円規模の事業の割には検討が不十分であると思う。	①本施設の音楽ホール機能では、「文化芸術の力を社会に生かす拠点」を基本方針の一つとしております。市では現在、開館後の事業展開を見据え、先行的に実施するプレ事業に取り組んでおり、こうした事業に市民の皆さまに参加いただき、また、その取組を広く知っていただくことで、本施設の目指す役割や価値への理解を深めていただくとともに、市民の皆さまの関心を高め、機運醸成を図っております。音楽の力による復興センター・東北は、市OB職員も在職しているところですが、東日本大震災直後から被災地支援に取り組む、これまで1,500回を超える復興コンサートを実施するなど、被災された方々の心の復興に大きく貢献してきた公益性の高い団体です。被災地支援に関する豊富な実績に加え、文化芸術分野における専門的知見や幅広いネットワークを有しており、本市が実施するプレ事業の趣旨を踏まえ、令和6年度からプレ事業を委託しております。 ②経済波及効果の試算については、青葉山エリアの特性や周辺施設との連携を考慮したうえで、本市における施設利用状況やイベント実績を踏まえながら、他都市の事例も参考とし算出しており、観光施策との一体的な展開を図りながら効果を高めるとともに、経済効果の最大化に取り組んでまいります。	令和8年7月31日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
133	①立地について:青葉山周辺を観光拠点として開発する意図は理解しますが、音楽ホールとして考えると、仙台市中心部からは少し距離がありアフターコンサートを楽しめる場所にはなっていない。地下鉄東西線のキャパを考えると音楽ホール利用者2千人に沿線利用者を加えた人数を短時間で輸送するのは無理があると思われる。海外からのお客様にも混雑した車内は、あまりいい思い出にならないのでは。駐車場を多くとるにしても周辺の道路事情を考えると渋滞を免れず、障害のある方の安全かつ快適な移動手段を考え付かない。落ち着いた歴史・文教地区である青葉山周辺。現存の萩ホール規模のホールが適当な大きさだと考える。現行の青葉山交流公園では七夕まつりなどの大きなイベントでの観光バス駐車場として、また国際センターでのイベント時の駐車場として機能している。この代替地はどこになるのでしょうか？ ②建築物のデザインについて:著名な方がデザインしたと聞くと、デザインの選定経過、費用などの情報を市民が取得するのは困難が伴う。知らないところで決められた感がある。これからでもいいのでHP等での公表をしてほしい。建物の全体イメージについて、社寺仏閣やお城を思わせる外観を狙ったものと思われるが、収まりがよくないと感じる。河岸段丘上の広瀬川右岸、地盤は固いと思われるが、凝った造りは地震等災害時の耐力が心配だ。複雑な形状を造るには当然に建築費用も修繕費用も高む。今後の維持管理も含めてもっとシンプルなものデザインが望ましいと考える。これまでに要した労力や時間・費用を考えると、再検討が難しいのは重々承知しているが、将来への、後代への負担を考えると、今一度立ち止まって、広く市民の意見を聴いて検討すべき。これまでもパブリックコメントを求める機会、少人数しか受け入れない説明会があったようだが、知らないうちにどんどん進んでしまって、後戻りにくいところに来ていると思う。これでは、市民あちこちから不満が出る。公表されている基本計画では外観デザインについては触れていない。入札はプロポーザル方式でとのこと。公表されたへんてこなデザインにこだわらず、建築費用、将来を見込んだ修繕費用が小さく済むような提案をしてくれる設計が採用されることを切望する。 ③需要想定調査について:公表が2020年、2019年データを使っている。コロナも5類になり、計測した年次から5年を経過した現在の需要・供給はどう変わってきたのか。また2028年度中に開館予定の宮城県立劇場が開館した後の動態はどうなるのか。音楽ホールの維持管理費用は少ない金額ではない。2020年の需要想定での利用収益だけでは賄えない、毎年度一般会計からの支出も必要になると思われる。少なくとも宮城県立劇場がオープンし、需要変化を測定できてから、それが遅すぎるのであれば需要動態を高い確率で推計できてから、費用を投下して遅くはないのか。仙台市の財政は厳しいと聞く。収益見込みと維持管理費用見込みを高確率で推計し、市民に公表すべきではないか。	①本施設は、音楽ホール機能に加え、中心部震災メモリアル拠点機能を備えた複合施設として整備するものです。中心部震災メモリアル拠点については、平成26年の仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会報告書を踏まえ、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携しながら、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと検討を進めてまいりました。震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたことなどを踏まえ、音楽ホール機能と一体的に整備することとしたものです。 また、本施設の整備にあたっては、必要な施設機能や規模を確保できる敷地が必要となりますが、仙台駅周辺においては十分な敷地の確保が課題であり、地下鉄東西線によるアクセスの良さと国際センター駅に隣接することともに、東北大学や青葉山公園、仙臺緑彩館などの周辺施設との連携による多様な交流やにぎわいの創出が期待できることから、青葉山エリアを整備予定地として選定しました。 なお、来館者の円滑な移動や駐車場の確保は重要であると認識しており、交通局や関係機関、近隣施設等と連携しながら、交通需要への対応や公共交通機関の利用促進を含め、引き続き検討を進めてまいります。 ②施設の外観については、「たくさんの/ひとつの響き」という設計コンセプトのもと、屋根を分節することで施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観と調和を図るとともに、深い庇(ひさし)を設けることで、日差しの遮蔽効果を高め、屋内と屋外が連続する開放的な環境を創出することを意図しております。 また、本事業では実施設計段階から施工予定者が参画するECI方式を導入し、施工ノウハウを活用しながらコスト縮減や施工性向上の検討を進めることとしており、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努めてまいります。 ③音楽ホールの需要想定調査は令和2年に公表したのですが、県が整備を進めている県立劇場は現県民会館の老朽化に伴う移転建替であり、現県民会館の利用の多くが移行すると見込まれております。 また、本市においては、市民会館及び震災復興記念館のホール機能を更新しない予定であることから、これらの施設が担ってきた需要を受け止める必要があります。 このため、本市としては、県立劇場の整備動向も踏まえつつ、既存施設から移行が見込まれる需要や本施設に求められる役割を考慮しながら、検討を進めているところです。 なお、開館後の管理運営に係る収支見込みについては、市民説明会資料等において公表しているところですが、今後の事業内容や運営体制の具体化に応じ、引き続き精査を進めてまいります。	令和8年9月8日
134	大規模なコンサートが行える会場は必要だと思う。利府の会場は交通の便も悪く、長町のアリーナは規模が小さいため、アーティストのコンサートなど最近では仙台すら飛ばされがち。だが、音楽ホールに必要なのは見た目の奇抜さではないと思う。 音響設備や内装に力を入れるべきではないか。今の計画のままでは、維持費が相当かかりそう。この物価高の時代、更にはこれから人口もドンドン減ってゆく一方なのに、どうやって維持してゆくつもりなのか。もしこのまま遂行されて、市税徴収が増えるようならばもう払いたくない。今一度、再検討を希望する。	本施設は、市民会館及び震災復興記念館が担ってきた需要を受け継ぐとともに、これまで本市では開催が難しかった大編成オーケストラや全国を巡回する公演、吹奏楽・合唱の全国大会などにも対応できる環境を整えることで、より多様な文化芸術活動の展開を可能にするものと考えております。 また、ホール機能については世界的な実績を持つ音響設計会社により、生の音源に対する優れた音響性能や鑑賞環境の確保に取り組んでおります。 一方で、近年の建築コストの上昇については、本市としても重要な課題であると認識しております。今後もECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努めてまいります。また、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税等による外部資金の獲得や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、さらなる財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年9月8日
135	N0.105の回答で「外壁ガラス面積の縮減や エスカレーター基数の見直しなど、施設機能や利便性とのバランスを図りながら、事業費の抑制に努めてきた」とあるが、具体的にどれくらいの金額を削減したのか示していただきたい。 また、随所に「本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴した」とあるが、市に要望があった時点から大幅に時間がたっており、今現在も音楽ホールの整備を望む多くの声があるかは甚だ疑問である。という自分も過去に要望していたことがあるが、事業費がこれだけ高騰すると、音楽ホールはいらないと思っており、同様に過去に要望していた人の中で音楽ホールの整備に反対する声がよくある。仙台市は市民の声に耳を傾けるべき。	本施設については、基本設計を進める中で、施設機能や利便性とのバランスを図りながら事業費の抑制に努めてきたところです。また、現在はECI方式により、施工予定者の技術的知見も活用しながら設計内容や施工方法等の検討を進めているところであり、引き続き施設に求められる機能を確保しつつ、事業費の抑制に努めてまいります。 本事業についてはこれまでもパブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら検討を進めてまいりました。本施設の整備により、多様な文化芸術活動の創出や市民の豊かな暮らしに資するだけでなく、国内外から多くの人々を惹きつけることで交流人口の拡大を促し、都心部のにぎわいや消費の創出など、地域経済への波及効果も期待されます。引き続き、先行事業の実施や若い世代を巻き込んだ市民共創による事業運営の検討を進めるとともに、様々な機会を捉えて情報発信に努めてまいります。	令和8年9月8日
136	高額過ぎる施設は造らないで欲しい、維持費が大変になる。	本施設につきましては、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人々を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 現在ECI方式により、施工予定者の技術的知見も活用しながら設計内容や施工方法等の検討を進めているところであり、引き続き必要な機能を確保しつつ事業費の抑制に努めてまいります。	令和8年9月8日
137	仙台市民が納得していないのに、強行に工事を開始するのは如何なのか。	本事業については、これまでもパブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら検討を進めてまいりました。 引き続き、本施設がもたらす意義や検討経過、期待される効果などについて丁寧に説明するとともに、先行事業の実施や若い世代を巻き込んだ市民共創による事業運営の検討を進めながら、様々な機会を捉えて情報発信に努めてまいります。	令和8年9月8日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
138	計画に反対。 どう考えてもおかしい。 もっと他にやるべきことがある。 以下理由 ①宮城県でも同様の施設を整備している。機能が重複しているなら、他にもやる ことがたくさんある。 ②予算が膨大になりすぎており、市民の血税を無駄使している。 ③施設のデザインが、建築家のエゴでしかない。品がない。どうみても施工コス ト、維持コストが高くなるデザインだと素人がみてもわかる。百歩譲って建設す るにしてももっとシンプルで、質素で、品のあるデザインにすべき。 ④多くの市民が反対していることを認識した方がよい。執行側は現状認識がで きていないのではないかと。 ⑤市長は自分のためにやっているように思えてしまう。本当に市民のためになる ことに知恵を絞ってほしい。	県が整備する県立劇場は、現県民会館の老朽化に伴う移転建替えであり、現県 民会館の利用の多くが移行すると見込まれております。一方、本市においては、 ホール利用の需要が非常に高い状況にあり、また市民会館及び震災復興記念 館のホール機能を更新しない予定であることから、これらの施設が担ってきた需 要を受け止める必要があります。また、本施設は優れた音響性能を備えた音楽 専用ホールと中心部震災メモリアル拠点機能を併せ持つ複合施設として整備す るものであり、県立劇場とそれぞれの特色を生かしながら、多様な文化芸術活動 を支える環境の形成を目指しております。 これまでも施設機能や利便性とのバランスを図りながら事業費の抑制に努めて いるところであり、施設の外観については、「たくさんの／ひとつの響き」を設計コ ンセプトとし、屋根を分節することで施設の高さや大きさによる圧迫感の軽減を図 るとともに、青葉山エリアの景観との調和を目指しております。さらに、深い庇(ひ さし)を設けることで日差しの遮蔽効果を高め、屋内と屋外が連続する開放的な 環境の創出を図るなど、機能性や周辺環境との調和にも配慮した計画としており ます。 今後詳細な設計の中で事業費の精査を進めるとともに、ECI方式を導入し、施 工予定者のノウハウを活用しながらコスト削減を図るほか、企業ふるさと納税 や協賛金・寄付金等の外部資金の獲得、地方交付税措置のある市債の活用な どにより、財源の確保と本市負担の軽減に取り組んでまいります。 本事業については、これまでもパブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご 意見を伺いながら検討を進めてまいりましたが、引き続き、本施設がもたらす意義 や検討経過、期待される効果などについて丁寧な説明に努めるとともに、先行事 業の実施や若い世代を巻き込んだ市民共創による事業運営の検討を進め、 様々な機会を捉えながら情報発信に努めてまいります。	令和8年 9月8日
139	強行突破で建設しないで欲しい。	本事業については、これまでも様々な機会を通じて市民の皆様からご意見を伺 いながら検討を進めてまいりました。 今後も、本施設の必要性や期待される効果について分かりやすくお伝えすると ともに、市民共創の取組などを通じて市民の皆様との理解促進に努めてまいりま す。	令和8年 9月8日
140	仙台市は市庁舎、市長車等の浪費が多い将来大丈夫なのか。	本施設の整備にあたっては、将来的な財政負担にも配慮しながら検討を進めて おります。 建設費の財源は基金及び地方債を予定しており、地方債の返済負担につい ても、「仙台市の財政見通しと対応の方向性について」によれば、市債残高のピー ク時においても国の早期健全化基準(25%)を十分下回る水準(概ね 10%を下 回る程度)となる見込みです。	令和8年 9月8日
	このような施設は仙台市中心部に建設すべきではないか。未だ空白の地となっ ている「さくら野百貨店跡地」がふさわしいと考える。 理由 ・交通の便が良い 駅から徒歩数分で、市民県民他県民とも、とてもアクセスしやすいです。また他 県からのお客様が夜公演を観劇後、最終の新幹線に飛び乗って帰る事ができ る。当日に帰れるなら頑張って弾丸ツアーで行く、という人は必ずいる。 ・周辺に飲食店や商店街がある 公演前の空き時間に軽食をとったりショッピングをする事が容易。公演前や昼公 演と夜公演の間の微妙な空き時間を有効に利用する事が出来る。夜公演の後 のご飯に困る事もない。また公演側が準備中に何らかの不足品が発生したとし ても、大抵のものはすぐに調達する事が出来る。 ・近くに宿泊施設が沢山ある 音楽ホールの近くに宿泊施設があれば、公演側が非常に利用しやすいと思う。 新幹線で来仙し、その後また別のバスなどに乗り換え宿泊地へ再び移動、更に リハーサルや公演の為にまたバス等に乗って会場施設へ移動する事は演者に とって非常に負担になると考える。駅前であればそのような負担をかけず、無 駄な移動を減らす事が出来る。また、この施設での公演日が休日であった場合、観劇側は 近くにホテルを取って観光してから帰る事が出来る。 ・多くの人に訪れてもらえる ふらりと立ち寄りやすい為、より多くの方々に常設企画展示などを見てもらえる。 ちょっと時間あいたから見ていこう、が出来るのは仙台駅前ならではの利点と言 える。また何らかの障害がある人も駅前にはアクセスしやすいのではないかと。	本施設は、音楽ホール機能に加え、中心部震災メモリアル拠点機能を備えた複 合施設として整備するものです。中心部震災メモリアル拠点については、沿岸部 の拠点と連携しながら震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと検討を進め てまいりました。震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識 されたことなどを踏まえ、音楽ホール機能と一体的に整備することとしました。 本施設の整備にあたっては、必要な施設機能や規模を確保できる敷地が必要と なりますが、旧さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満 であり、本施設の立地場所としては十分な広さを確保することが困難であるかと 考えております。 一方、青葉山エリアの整備予定地は地下鉄東西線国際センター駅に近接すると ともに、東北大学や青葉山公園、仙臺緑彩館などの周辺施設との連携による多 様な交流やにぎわいの創出が期待できる立地であることから、選定したもので す。 なお、来館者の円滑な移動の確保や周辺交通への影響については、交通局を はじめとする関係機関や近隣施設等と連携しながら、イベント開催時の交通需要 への対応や公共交通機関の利用促進に取り組むとともに、利用者の安全性・利 便性の確保に向けて引き続き検討を進めてまいります。 「災害文化」という表現につきましては、災害そのものを文化と捉えるものでは なく、災害の経験や教訓を継承し、防災・減災に生かしていくための市民の営みや 実践の積み重ねを表現するものとして用いております。災害を乗り越える知恵や 術(災害文化)を日常生活や社会の仕組みに定着させ(災害文化の実装)、時代 の変化や気候変動に応じてアップデートし続ける営みを牽引し、呼びかけ続ける 拠点を目指しています。引き続き、その趣旨について市民の皆様に分かりやすく お伝えできるよう、情報発信に努めてまいります。 また、ショップ機能やワークショップ、トイレ計画、子育て世帯への配慮、防災対 策、フリースペースの運営など、施設計画や運営に関する具体的なご提案につ きましても、今後の検討の参考とさせていただきます。	

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日	
141	・いつまでも駅前の一等地が空いているままなのは市民として心苦しい 色々事情がある事は知っているが、ここにずっと何もないのは恥ずかしい。他 県の友人に「仙台大丈夫なの?」と言われる。新しいシンボルが出来てくれたら 嬉しい。 *** 観劇が趣味の人について少し知っている事をご紹介したい。私もピアノコンサ ートやバレエ、2.5次元舞台(漫画作品の舞台化)など観劇しているが、友人はもっ とすごい観劇オタク。 特に2.5次元舞台の熱心なファン(主に女性)は遠く離れた地方公演でも観に行 くし、チケットさえ手に入れば全国の全公演を追いかけける人もいる。それだけでなく 訪れた先で3日間の公演があれば全て観たいと思っている。舞台であれば1日に 昼公演と夜公演の2回ある事がほとんどで、どちらも観る。観劇のファンはこのよ うに熱量が高く、そしてお金を惜しまない人が多い。このために生きていると言っ ても過言ではない人達がいる。 参考までに。 この間「けんしん郡山文化センター」で行われた2.5次元舞台を見に行った。私は 夜公演のみ、友人は昼公演と夜公演両方を観劇している。公演前に会場から少 し離れたカフェでお茶をしつつ友人と待ち合わせ、観劇後は何とか見つけた居酒 屋でラストオーダーぎりぎり滑り込みで夕食を食べた。そしてビジネスホテルに一 人一部屋で一泊し、翌日はレンタカーを借りて友人と猪苗代湖周辺の観光をした のち仙台に帰った。これはカフェ、会場、ホテル、郡山駅がとても近い事で比較 的問題なく立ち回る事が出来ている。そしてこの一連の旅で凄く控えめに散財して5 万円程度(チケット代を除く)使った。もし他県のお姉さま方がとある週末の公演に 1000人が仙台に観劇に来てくれて、ついでに観光をして5万円ずつ使ってくれる と仮定すると、単純計算で合計5000万円の収益になる。すごい事だ。お行儀のよ い方が多いので、トラブルの心配も少ない。 観劇の旅に起こりがちな困りごと ・観劇前後に落ち着いてお茶をしたり食事をする場所がない。又は飲食店が少な くどこも満員で入れず手持無沙汰になりがち ・施設が遠い、またはアクセスしづらい ・立地的に当日に帰れないかもしれないから、そもそも行けない(次の日が仕事) こういった困りごとが無い完璧な施設が仙台にあったらいいのにと思っている。こ れらは一見大したことなさそうな困りごとに見えて、実は非常に重大な問題であ る。 仙台市の現状として、最近では舞台もアーティストもめばしいところは中々仙台 公演を行ってくれない。理由はやはりアクセスの悪さや使い勝手の悪さではない か。 例えばグランディ21(セキスイハイムスーパーアリーナ)でコンサートが行われる 場合、ほとんど車でしか行く事が出来ない。シャトルバスが出る事もありますが、 必ずではない。他県から公共交通機関で来る人は、計画的かつ急がないと帰 りの新幹線に間に合わない。 東京エレクトロンホールまでは結構歩くし、施設の規模が小さい。イズミティ21や 青年文化センター、多賀城市民会館(仙台ではないが)もアクセスが良いとは言 えず、これらも施設の規模が小さい。そしてどこも周辺には飲食店や公演前の空 き時間を充実させる場所が少ない。交通の便が良くてアクセスしやすく周辺施設 も充実していて、丁度良い大きさの施設が仙台にはない。また公演側としても使 い勝手が悪いうえ、こんなに場所も不便ではファンに対して手放して「来てね」と は言いづらい。そうして仙台は公演地の候補から外れていると考えられる。 熱量の高い観劇好きの方々に来てもらえたら仙台市は非常に盛り上がり、そし てインバウンドよりも圧倒的に潤う主要産業になると思う。いつも観劇に出かけ た際に困っている事が全て解決されていて、公演側も使いやすいとなれば全国 の皆が使ってくれる施設になると思う。仙台公演が当たり前の時代になる。その 為にはものすごく利便性の高いさくら野百貨店跡地への音楽ホール建設が非常 に適していると考えます。			令和8年 9月8日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
	*** 青葉山はとても素敵な場所だが、冒頭で述べたような利便性に乏しく、また多くの人が一斉に訪れる場としては向かないと考える。交通の便の悪さ、収容人数に対する駐車場の圧倒的な少なさ、周辺の飲食店や小売店の少なさ等、現存する他の施設と大差ない。 1階に入居予定のレストランは何時まで営業して2000人のうち何人が入れるのか。公演後の帰宅を考えたとき、車1台に2人ずつ乗ってきたと考えて90台で180人、更に同数の180人がタクシーを使ったとして、残りの1640人が最寄りの駅やバス停から帰路につけるまでの位時間がかかるのか。バスは30分に1本で20時20分頃が最終(平日)、収容人数は大型市営バスで約75人、地下鉄は約15分置きに1本で収容人数が約388人。市民も利用している公共交通機関ですから、会場にいる人が定員いっぱい乗っていきけるわけではない。 熊と遭遇する危険がある為、徒歩で帰らせるわけにもいかない。待ち時間が長く混雑して時間潰し場所もない、せっかくの素敵な公演を多大なストレスや不満で上塗りする事になる。公共交通機関を生活に使う市民への影響もはかり知れない。 大規模な芸術公演を行う場にするならば、使い勝手の悪さは致命的である。 さらに言えば、資料の12ページ(5)多様性が尊重され誰もが輝ける社会づくりとあるが、この公演後帰宅ラッシュは老人を年齢や体力面で若い人達とのちがひによって排除している恐れがあり、「柔軟で配慮あるサービス」から外れていると思う。青葉山には、工作工房やワークショップスペースを別館として作るのが良いと思う。学校の校外学習を非常にしやすいと考える。また、そこを災害時の最先端の避難所や有事の際の災害対策拠点、備蓄庫としての設備を設けるなどしてもらえると市民としては安心できる。 *** その他 1、資料に書かれている「災害文化」という言葉は不謹慎かつ不適切だと感じる。ものすごく違和感がある。何故なら文化というのは人工物だからだ。人間社会において共有される価値基準や、人の営みが文化。辞書にも書いてある。災害を文化とすると、人が災害を作り出しているという意味にとらえられる。仙台では人工的に災害を起こし街を破壊する習慣があるという解釈ができてしまう。被災された方々や災害で亡くなった方々に対して極めて配慮に欠ける言葉である。私自身も被災者として非常に気分が悪い。「災害対策文化」や「災害対応文化」など別の言葉に変更してほしい。 2、資料の32ページ「4. 広場エリアの運用」に「多様な人々が気軽に立ち寄り、ホールで公演がない時でも賑わう施設を目指します」とあるが、多くの一般市民にとって青葉山は立地的にわざわざ行く場所であって気軽に立ち寄れる場所ではない。気軽に立ち寄れるのは東北大生や仙台二校の生徒位である。青葉山では目標を達成できないと思う。 3、33ページ(1)来館者サービス「グッズ等を取り扱うショップ機能についても、あり方を検討します。」はとても良いと思う。公演の公式グッズをその場で購入できる事はすごく喜ばしい。混雑や混乱が起こらないような設計をしていただけるととても助かる。 4、資料を拝見した限り、凄く真面目な施設という印象を受けた。取り扱っている題材が災害ですから真面目であるべきなのですが、少しとっつきにくさを感じる。個人的には好きなアーティストの公演が無い限り、辛い記憶がよみがえるだけの気がして「行ってみようかな～」という気持ちにならない。なので親しみやすさを感じる何かほしい。ガチャガチャコーナーや一般的な工芸等のワークショップなど良いと思う。こういうのを目当てに行くと、他のエリアもちょっと覗いてみようかなとなるはずである。 5、女子トイレの数を多くして欲しい。一般的な女子トイレの数では長蛇の列ができる事が分かっているため、数を多めに作ってもらえると凄く助かる。 6、男子トイレと女子トイレどちらを使用できるかについては生物的分類でのみ分ける事を絶対としてほしい。男性は男子トイレ、女性は女子トイレ、心の性自認は関係ない。見られたくないという人の為に男子トイレに個室を多めに設置すると良いと思う。 7、おむつ替えや授乳のためのスペースは父親が使用できるものも作ってほしい。(女性が授乳するスペースとは距離を離してほしい。)女子トイレの中などにしない、子連れ男性は困ってしまう。父親が使える場所が無いと、母親にだけ負担がかかる社会のまま変わらないし、父と子のシングル家庭もお出掛けが厳しい状況が変わらない。そして、このようなスペースの近くには警備員を配置するなど防犯対策をしてほしい。授乳室やおむつ替え室に入る女性とあたかも夫婦であるかのように装って同室に侵入を試みる不届きものがある。女性の授乳シーンを見た者や、おむつ替えの時の赤ちゃんの下半身を見た者、そしてそれを録画しようとする者、色々いる。このような悪質な性犯罪者による被害者をださないよう気を付けてもらいたい。 8、フリースペースは利用時間制限を設けて欲しい。最近タダでいられる場所から動かない人をよく見かける。例えばアエル1階の出入り口付近の小さいテーブルが置いてあるところや、スーパーのベンチなど。皆で使う場所なのに、一人の人がずーっと何時間も占領して困る事が多い。私の経験では今の所100%外国人だが、日本人にも恐らくいるだろう。こういうマナー違反抑制の為に時間制限があってもいい。それでもこれを突破してくる場合人種関係なく毅然と対応してほしい。マナーを守る人が損をしないような運用を希望する。		

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年7月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.27～31 No.133～No.146を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
142	税金の無駄だ。	本施設の整備により、多様な文化芸術活動の創出や市民の豊かな暮らしに資するだけでなく、国内外から多くの人々を惹きつけることで交流人口の拡大を促し、地域経済への波及効果も期待されます。 本市といたしましては、本施設が仙台のまちづくり・ひとづくりを支える施設となるよう検討を進めているところです。引き続き、事業費の抑制や財源確保に努めるとともに、様々な機会を捉えて情報発信に努めてまいります。	令和8年 9月8日
143	仙台で生まれ、4年間の学生時代とサラリーマンとして約8年間は東京、福島で過ごした以外、56年間は仙台で過ごしている。三人の子供達はみんな仙台で高校を卒業し、二人は県外で学生生活を送ったものの、皆、社会人となり仙台でくらししている。新聞、テレビ等で音楽ホールの建設計画を目にしているが、我慢できなくなり、意見を申し上げる。 そもそも646億円の建設事業費を要する施設が仙台市民に将来に向けてどれだけの効用や利益をもたらすか、私にはまったく想像がつかない。私見ですが、文化、スポーツ事業は生産性をあげるものではない、と考える。それだけに身の文にあったもの、施設も一部の富裕層や限られた組織、集合体のためにあってはならないと常日頃から思っている。小中学校の再編やそれに伴う校舎、設備の見直し、子育てのための制度の充実、教育のための人材育成、隣接する市町村と連携した働く場の拡充や産業の育成等やるべき施策は山ほどあると思う。仙台市には優秀なスタッフがいるはず、なんとか考え直してほしい。箱物行政はたくさんである、市長みずから再考して欲しいと強く言いたい。	本市では、出産・子育てを支援するための施策をはじめ、福祉や教育、インフラの維持等、様々な取り組みを進めているところであり、市民生活の基盤を支える施策についても、引き続き力を入れて取り組んでいく必要があると考えております。 本施設は、文化芸術や災害文化にかかる様々な事業を展開することで、多様な社会的価値を創出し、将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしを実現するものと考えております。特に、こどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会の創出につながるものと考えております。 引き続き、施策間のバランスに十分配慮しながら、事業費の精査や財源の確保に努めるとともに、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら事業を進めてまいります。	令和8年 9月8日
144	箱物はいらない、箱物で一部の市民しか幸せにならない、多数の市民は不幸になる。	本施設は特定の人のみを利用する施設ではなく、市民による文化芸術活動の場としての利用に加え、国内外から多くの人々を惹きつけることで交流人口の拡大を促し、地域経済への波及効果やにぎわいの創出にも寄与する施設であると考えております。 また、多様な文化芸術活動の創出や市民の豊かな暮らしに資するだけでなく、中心部震災メモリアル拠点機能を備えた複合施設として、震災の経験と教訓を次世代へ継承する役割も担うものです。 引き続き、本施設がもたらす意義や期待される効果について丁寧な説明に努めるとともに、様々な機会を捉えながら情報発信に取り組んでまいります。	令和8年 9月8日
145	造って失敗したら誰が責任を取るのか。 無責任な行政はしないべきだ。	本市では、需要想定調査や各種検討に加え、これまでもパブリックコメントや説明会等を通じて幅広くご意見を伺いながら検討を進めてまいりました。 引き続き、本施設がもたらす意義や期待される効果について丁寧な説明に努めるとともに、事業費や運営手法の精査を進めてまいります。	令和8年 9月8日
146	財政運営の健全性は誰が保証するのか。 失敗したら仙台市職員全員の給与で、補填する覚悟で建設してほしい。	本施設の整備にあたっては、将来的な財政負担にも配慮しながら検討を進めております。地方債の償還負担についても、「仙台市の財政見通しと対応の方向性について」において、市債残高がピークとなる時期においても国の早期健全化基準を十分下回る水準となる見込みです。 引き続き事業費の抑制に努めるとともに、国の補助制度の活用や企業版ふるさと納税をはじめとする民間資金の獲得など、財源の確保に取り組んでまいります。	令和8年 9月8日